

1

生命保険（個人年金保険を含む）の加入状況

（1）加入率（個人年金保険を含む）

（1）世帯加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯員の少なくとも一人以上が生命保険に加入している世帯の割合を示している。例えば、世帯員のうち一人が生命保険に加入している世帯も二人が生命保険に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントすることになる。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入率} = \frac{\text{世帯員の少なくとも一人以上が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

また、全生保世帯加入率とは世帯員の一人以上が、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等の4機関のうちいずれかに加入している世帯の割合を示している。（以下同様）したがって、民保に加入している世帯も民保と簡保両方に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントするので、前述の4機関のそれぞれの世帯加入率を合計しても全生保世帯加入率とはならない。

（2）世帯主の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯主が加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入率} = \frac{\text{世帯主が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

4機関の世帯主加入率を合計しても全生保世帯主加入率とならないのは、前述と同様である。

（3）配偶者の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、配偶者のいる世帯における配偶者の生命保険に加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{配偶者の加入率} = \frac{\text{配偶者が加入している世帯数}}{\text{本調査に回答した世帯主で配偶者のいる世帯数}} \times 100$$

4機関の配偶者の加入率を合計しても全生保の配偶者の加入率とならないのは、前述と同様である。

(4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とは

子ども（未婚で就学前・就学中）が生命保険に加入している割合のことで、次の式で算出している。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率} = \frac{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}{\text{本調査に回答した子ども（未婚で就学前・就学中）がいる世帯での子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}} \times 100$$

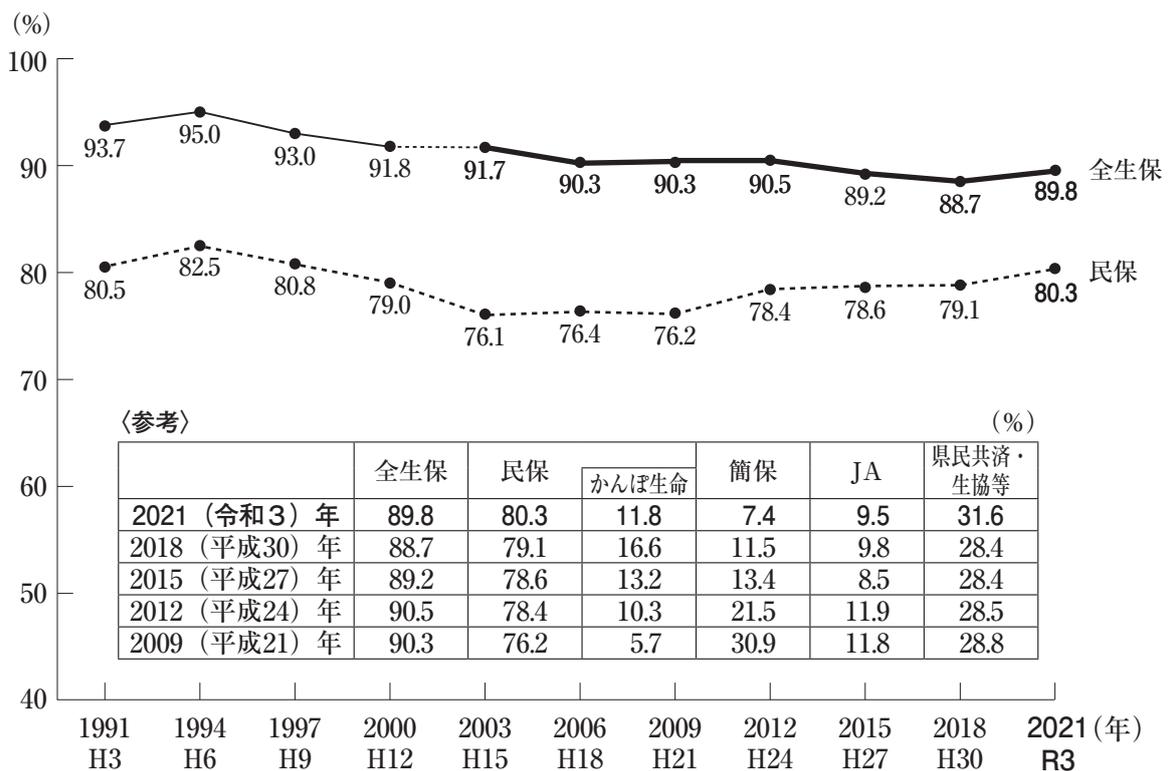
4機関の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率を合計しても全生保の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とならないのは、前述と同様である。

(ア) 世帯加入率（個人年金保険を含む）

生命保険の世帯加入率は全生保で89.8%（前回88.7%）、民保で80.3%（前回79.1%）となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 1）

〈図表 I - 1〉 世帯加入率の推移



〈参考〉

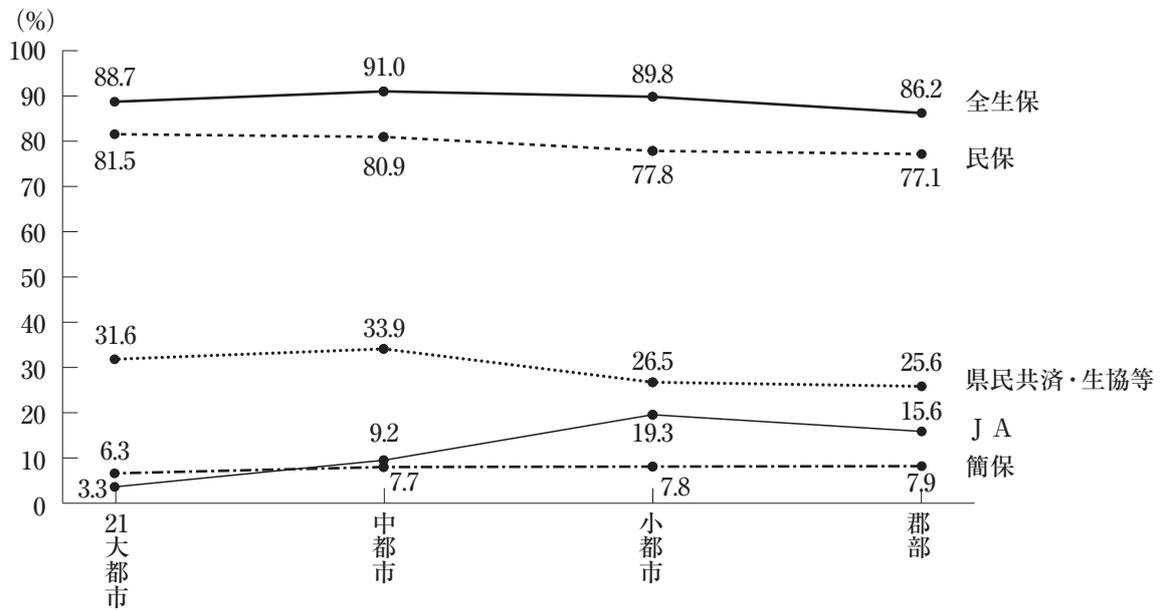
	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3) 年	89.8	80.3	11.8	7.4	9.5	31.6
2018 (平成30) 年	88.7	79.1	16.6	11.5	9.8	28.4
2015 (平成27) 年	89.2	78.6	13.2	13.4	8.5	28.4
2012 (平成24) 年	90.5	78.4	10.3	21.5	11.9	28.5
2009 (平成21) 年	90.3	76.2	5.7	30.9	11.8	28.8

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*全生保の2000（平成12）年以前は民保、簡保、JAの計

市郡規模別にみると、全生保では「中都市」で91.0%と高くなっている。また、JAは「小都市」(19.3%)、「郡部」(15.6%)で、県民共済・生協等は「中都市」(33.9%)で高くなっている。(図表I-2)

〈図表 I - 2〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率 (市郡規模別)



*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯加入率について世帯主年齢別にみると、「30～34歳」および「40～44歳」から「65～69歳」にかけて90%を超えている。

時系列でみると、「80～84歳」では2009（平成21）年から一貫して増加傾向が続いており、2009（平成21）年に比べ13.3ポイント増加している。（図表I-3）

〈図表I-3〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率（全生保）（世帯主年齢別）
（%）

	2009 （平成21）年	2012 （平成24）年	2015 （平成27）年	2018 （平成30）年	2021 （令和3）年
全 体	90.3	90.5	89.2	88.7	89.8
29歳以下	71.6	76.6	77.5	79.2	70.2
30～34歳	86.9	89.2	86.7	86.7	90.7
35～39歳	91.7	93.4	93.3	88.7	89.4
40～44歳	93.9	92.2	91.4	92.4	93.2
45～49歳	95.3	95.1	95.2	93.3	94.0
50～54歳	96.1	95.4	92.8	93.5	93.0
55～59歳	93.8	96.3	96.1	94.1	94.8
60～64歳	94.3	91.9	91.2	92.1	92.4
65～69歳	93.3	92.3	91.2	89.5	93.8
70～74歳	86.7	87.0	89.0	88.4	88.2
75～79歳	77.2	84.8	79.9	82.3	85.0
80～84歳	66.9	67.8	71.1	76.9	80.2
85～89歳	61.8	64.3	68.4	69.5	67.5
90歳以上	72.7	55.6	52.2	71.4	52.2

* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* 90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯加入率について世帯主年齢別にみると、「30～34歳」から「65～69歳」にかけて、80%を超えている。

時系列でみると、「75～79歳」と「80～84歳」で2009（平成21）年から増加傾向が続いている。
（図表 I - 4）

〈図表 I - 4〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率（民保）（世帯主年齢別）
（%）

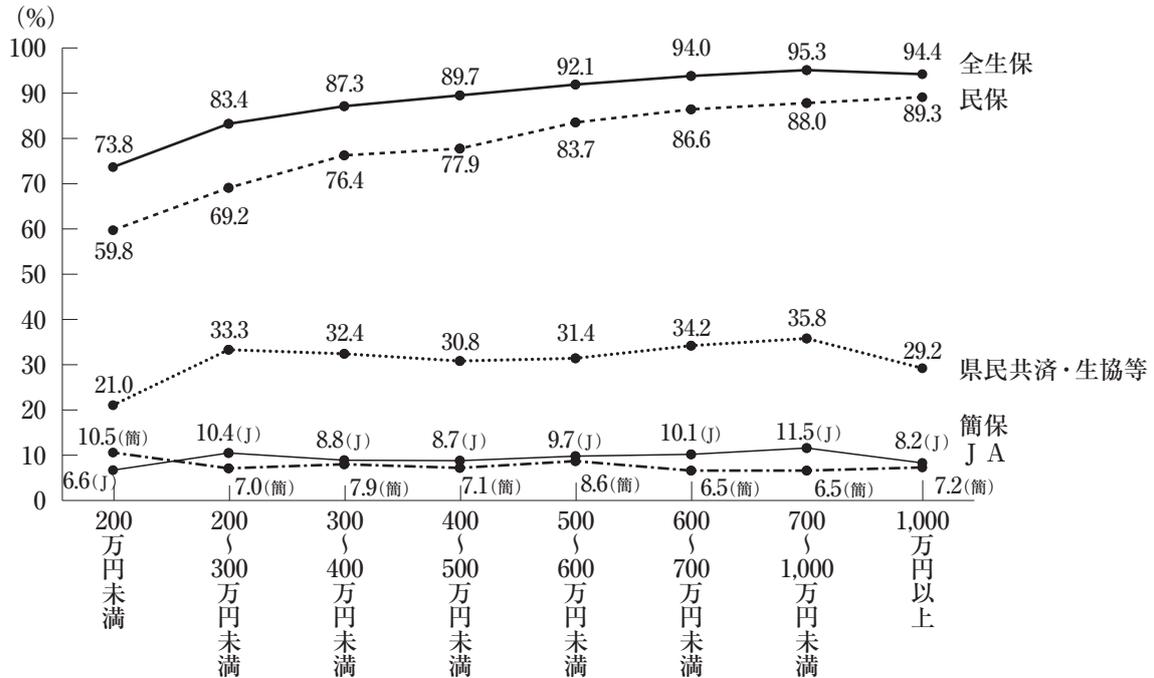
	2009 （平成21）年	2012 （平成24）年	2015 （平成27）年	2018 （平成30）年	2021 （令和3）年
全 体	76.2	78.4	78.6	79.1	80.3
29歳以下	55.6	57.1	63.8	72.2	65.4
30～34歳	70.1	74.0	79.8	81.4	80.5
35～39歳	76.2	81.7	82.7	80.0	81.1
40～44歳	84.5	81.3	81.2	84.5	81.6
45～49歳	86.7	85.5	86.2	86.0	87.0
50～54歳	86.4	86.3	84.7	85.1	84.6
55～59歳	80.6	85.3	85.3	83.9	84.7
60～64歳	78.3	79.4	79.2	81.4	84.6
65～69歳	76.4	79.3	76.8	76.4	84.1
70～74歳	70.9	76.3	78.9	80.6	77.6
75～79歳	60.6	68.9	70.7	72.5	73.4
80～84歳	51.2	52.6	62.1	64.5	69.1
85～89歳	38.2	47.6	57.9	58.1	55.4
90歳以上	54.5	44.4	43.5	57.1	52.2

* かんぽ生命を含む

* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保と民保ともに概ね世帯年収が高くなるほど加入率が高く、特に「600万円以上」の層で高い割合となっている。また、JA、県民共済・生協等は「700～1,000万円未満」の層で高くなっている。(図表I-5)

〈図表I-5〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率（世帯年収別）



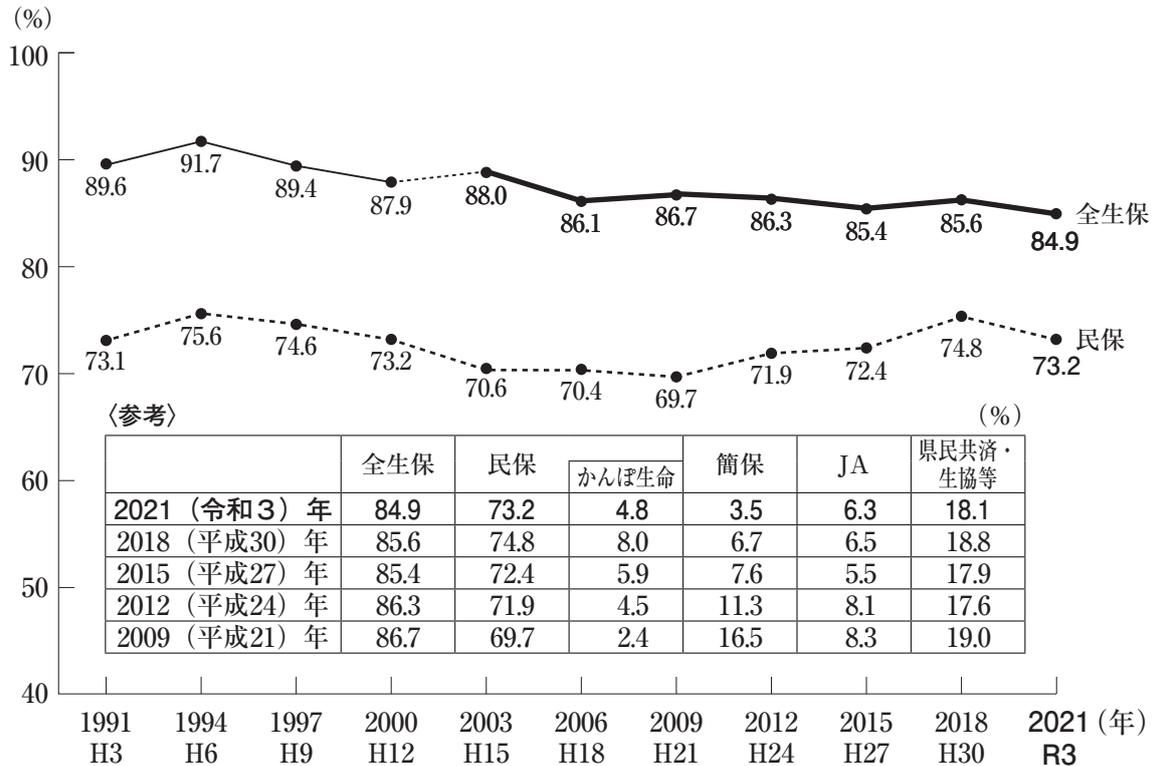
* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 世帯員の加入率（個人年金保険を含む）

(a) 世帯主の加入率（個人年金保険を含む）

世帯主の加入率は全生保で84.9%（前回85.6%）、民保で73.2%（前回74.8%）となっている。前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 6）

〈図表 I - 6〉 世帯主の加入率の推移

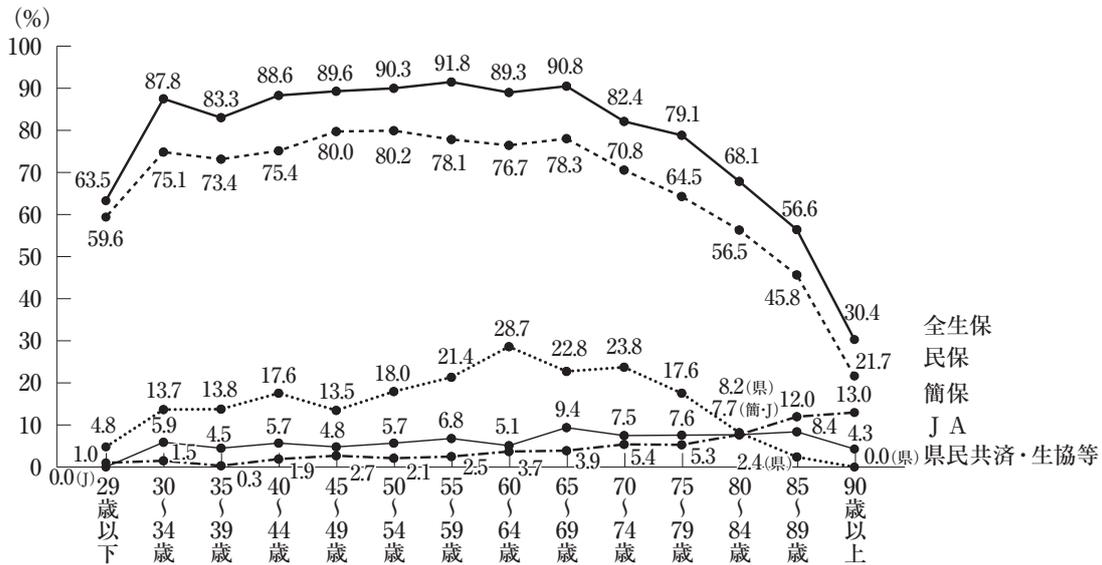


* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* 全生保の2000（平成12）年以前は民保、簡保、JAの計

世帯主年齢別にみると、全生保では「50～54歳」、「55～59歳」および「65～69歳」で9割を超え高くなっている。民保では「45～49歳」および「50～54歳」で8割を超えて高くなっている。県民共済・生協等では「60～64歳」（28.7%）、「65～69歳」（22.8%）、「70～74歳」（23.8%）で高くなっている。（図表I-7）

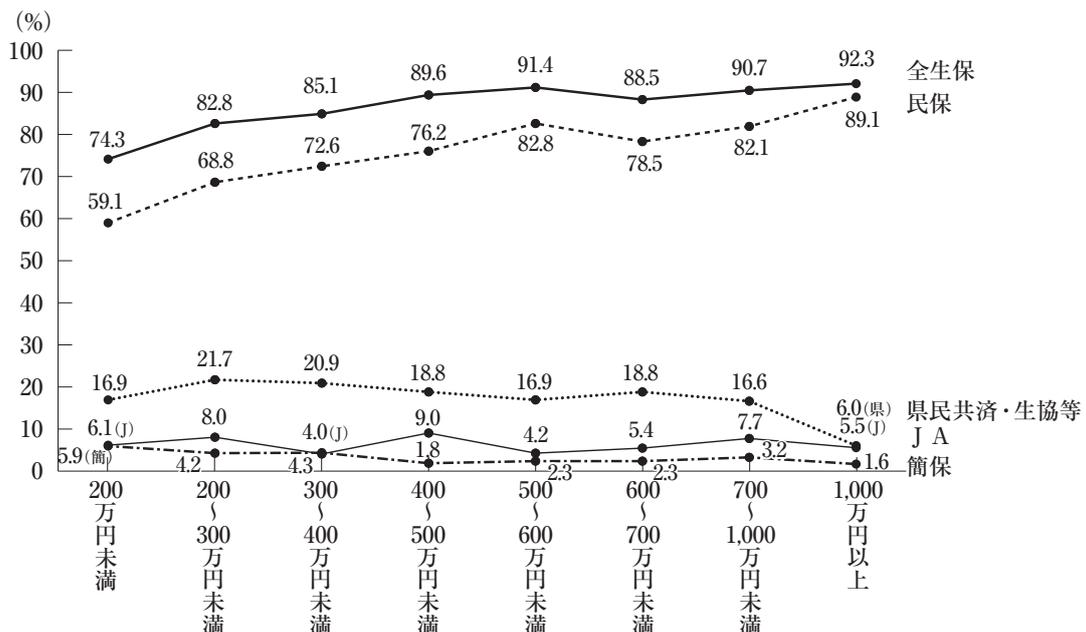
〈図表I-7〉 世帯主の加入率（世帯主年齢別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*90歳以上はサンプルが30未満

世帯主年収別にみると、全生保と民保ともに概ね世帯主年収が高くなるほど加入率が高く、特に全生保で「400万円以上」の層、民保で「500万円以上」の層で、それぞれ高い割合となっている。県民共済・生協等では「200～300万円未満」（21.7%）、「300～400万円未満」（20.9%）で2割を超えて高くなっている。（図表I-8）

〈図表I-8〉 世帯主の加入率（世帯主年収別）

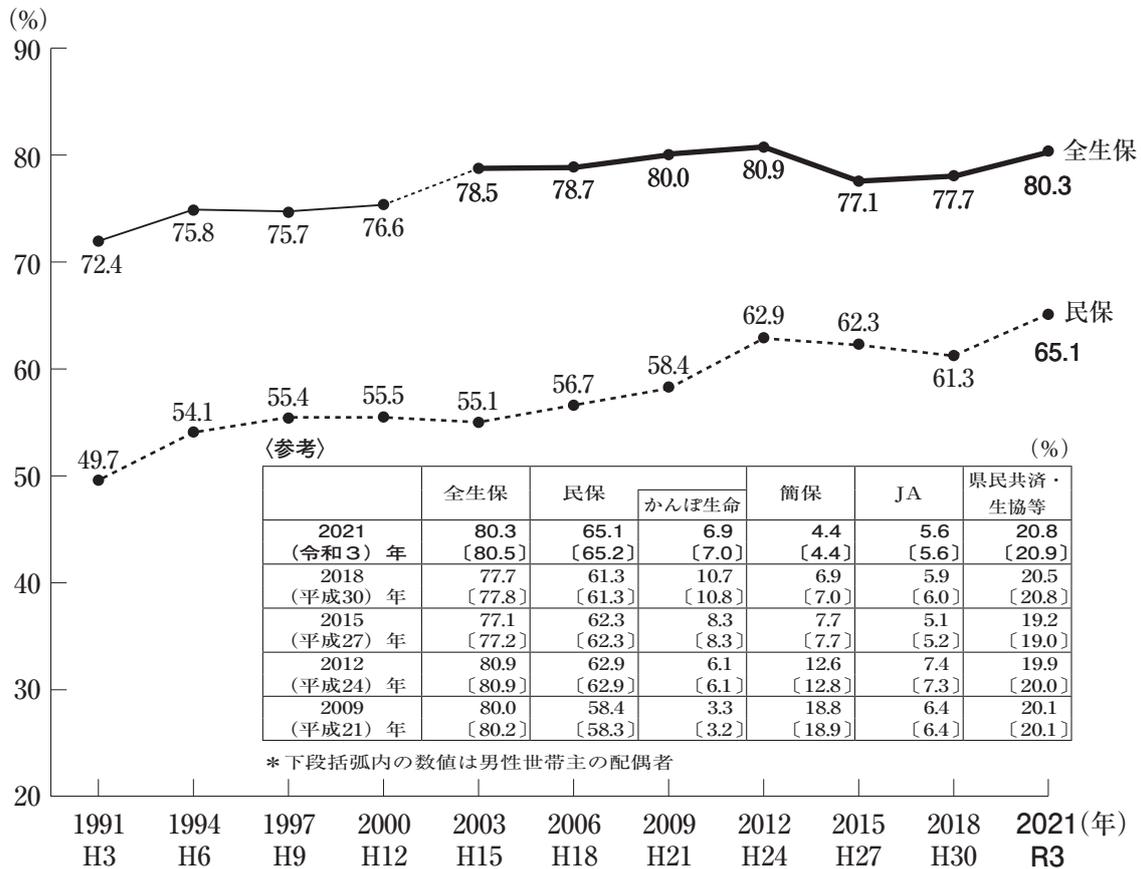


*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(b) 配偶者の加入率（個人年金保険を含む）

配偶者の加入率は全生保で80.3%（前回77.7%）、民保で65.1%（前回61.3%）となっている。前回と比較すると全生保で2.6ポイント、民保で3.8ポイント増加している。（図表 I - 9）

〈図表 I - 9〉 配偶者の加入率の推移

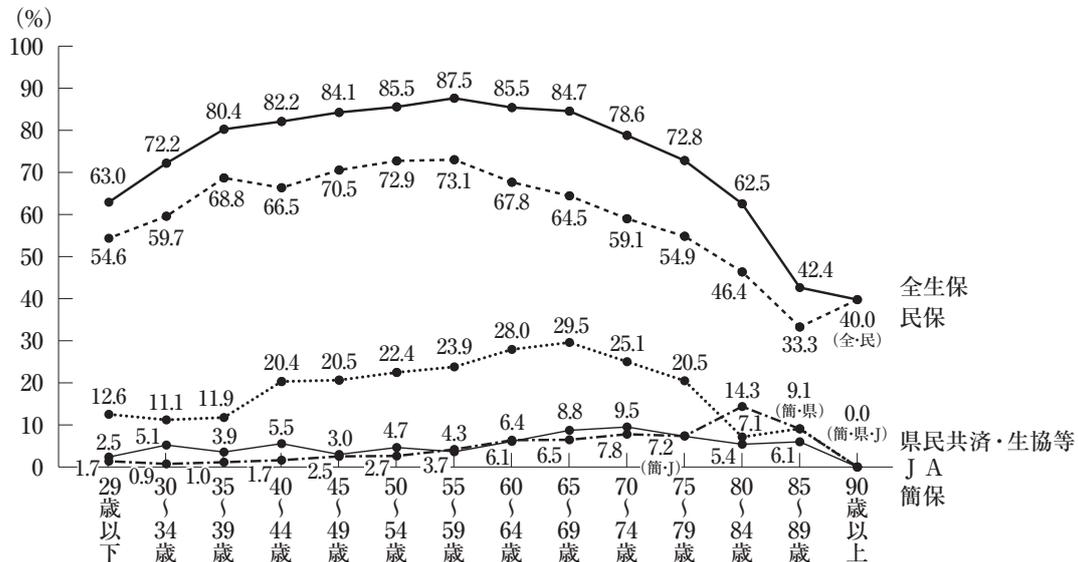


* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* 全生保の2000（平成12）年以前は民保、簡保、JAの計

配偶者の年齢別にみると、全生保では「45～49歳」から「65～69歳」で、民保では「45～49歳」から「55～59歳」で、それぞれ高くなっている。県民共済・生協等では「60～64歳」から「70～74歳」で高くなっている。(図表 I - 10)

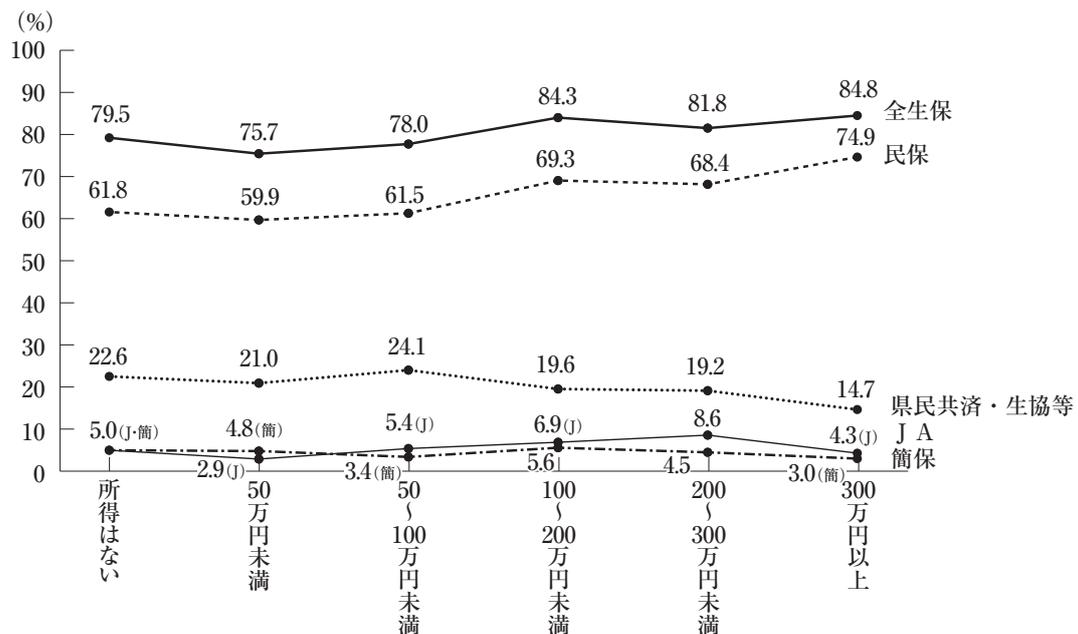
〈図表 I - 10〉 配偶者の加入率（配偶者の年齢別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*90歳以上はサンプルが30未満

配偶者の年収別にみると、概ね年収が高くなるほど加入率が高く、全生保では「100万円以上」で8割を超えている。民保でも同様の傾向がみられ、「300万円以上」では7割を超えている。(図表 I - 11)

〈図表 I - 11〉 配偶者の加入率（配偶者の年収別）



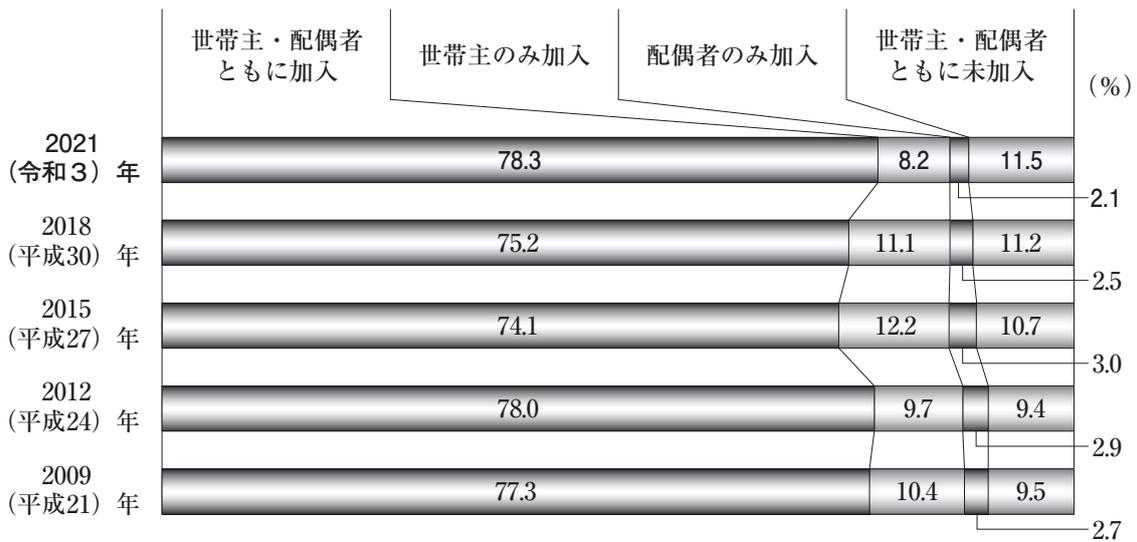
*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(c) 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（個人年金保険を含む）

配偶者がいる世帯における夫婦の加入形態をみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は78.3%（前回75.2%）、「世帯主のみ加入」は8.2%（前回11.1%）となっている。

前回と比較すると「世帯主・配偶者ともに加入」で3.1ポイント増加し、「世帯主のみ加入」で2.9ポイント減少している。（図表 I - 12）

〈図表 I - 12〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は「40～44歳」から「65～69歳」で8割を超えている。「世帯主・配偶者ともに未加入」は「29歳以下」(35.1%)および「85～89歳」(35.9%)の層で3割以上と高くなっている。(図表I-13)

〈図表I-13〉 夫婦の生命保険(全生保)への加入形態(世帯主の年齢別)
(%)

	世帯主・配偶者 ともに加入	世帯主のみ 加入	配偶者のみ 加入	世帯主・配偶者 ともに未加入
全 体	78.3	8.2	2.1	11.5
29歳以下	54.5	7.8	2.6	35.1
30～34歳	76.3	11.3	0.5	11.8
35～39歳	72.8	10.4	2.5	14.3
40～44歳	80.5	8.8	2.1	8.5
45～49歳	82.5	8.7	1.6	7.1
50～54歳	82.2	9.2	0.9	7.7
55～59歳	86.7	5.8	0.6	6.8
60～64歳	84.3	7.0	2.0	6.7
65～69歳	85.1	6.6	0.5	7.7
70～74歳	78.0	5.6	3.3	13.0
75～79歳	72.1	9.3	2.7	15.9
80～84歳	60.6	10.9	6.7	21.8
85～89歳	51.6	6.3	6.3	35.9
90歳以上	20.0	10.0	0.0	70.0

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は概ね世帯年収が高くなるほど高く、「700～1,000万円未満」の層では85.5%と高くなっている。逆に「世帯主・配偶者ともに未加入」は、概ね世帯年収が低くなるほど高く、「200万円未満」(24.1%)では2割を超えている。(図表I-14)

〈図表I-14〉 夫婦の生命保険(全生保)への加入形態(世帯年収別)
(%)

	世帯主・配偶者 ともに加入	世帯主のみ 加入	配偶者のみ 加入	世帯主・配偶者 ともに未加入
全 体	78.3	8.2	2.1	11.5
200万円未満	67.9	5.8	2.2	24.1
200～300万円未満	70.3	9.1	2.5	18.0
300～400万円未満	74.2	8.3	2.9	14.6
400～500万円未満	77.3	8.6	2.8	11.4
500～600万円未満	81.8	7.6	1.0	9.6
600～700万円未満	78.0	12.5	1.3	8.2
700～1,000万円未満	85.5	6.9	1.2	6.4
1,000万円以上	81.0	7.7	2.0	9.4

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(d) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（個人年金保険を含む）

調査対象世帯の子ども（未婚で就学前・就学中）の総数に占める加入率（全生保）は46.7%（前回51.1%）となっている。

機関別にみると、民保19.3%（前回18.5%）、かんぽ生命4.7%（前回5.5%）、簡保1.8%（前回3.1%）、JA2.9%（前回2.6%）、県民共済・生協等18.1%（前回18.7%）となっている。（図表 I - 15）

〈図表 I - 15〉 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率

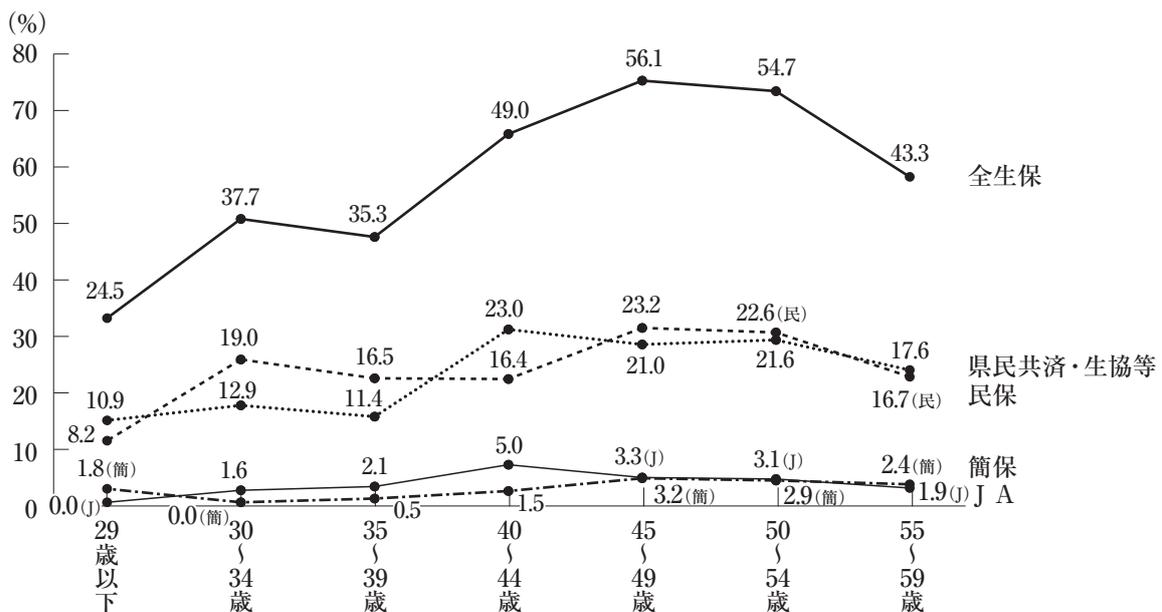
(%)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3)年	46.7	19.3	4.7	1.8	2.9	18.1
2018 (平成30)年	51.1	18.5	5.5	3.1	2.6	18.7
2015 (平成27)年	52.9	22.2	5.9	4.9	2.6	19.7
2012 (平成24)年	54.8	22.1	4.5	9.0	3.5	19.4
2009 (平成21)年	55.0	22.4	2.3	14.5	4.3	16.6

*全生保は民保（かんぽ生命を除く）、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保、民保とも「45～49歳」で最も高く、全生保が56.1%、民保が23.2%となっている。（図表 I - 16）

〈図表 I - 16〉 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（世帯主年齢別）



*全生保は民保（かんぽ生命を除く）、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*「60～64歳」から「90歳以上」はサンプル数が少ないため削除

(2) 加入件数（個人年金保険を含む）

(1) 世帯加入件数とは

生命保険に加入している世帯で平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入件数} = \frac{\text{全世帯員の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約や連生保険（年金）などのように一つの保険で複数の人が保障されている場合は、一件としてカウントしている。

(2) 世帯主の加入件数とは

世帯主が生命保険に加入している世帯で、世帯主が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入件数} = \frac{\text{世帯主の総加入件数}}{\text{世帯主が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、世帯主が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(3) 配偶者の加入件数とは

配偶者が生命保険に加入している世帯で、配偶者が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{配偶者の加入件数} = \frac{\text{配偶者の総加入件数}}{\text{配偶者が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、配偶者が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数とは

生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数} = \frac{\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、子ども（未婚で就学前・就学中）が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(ア) 世帯加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険加入世帯の平均加入件数（全生保）は3.9件（前回3.9件）となっている。

機関別にみると、民保3.2件（前回3.2件）、簡保1.9件（前回1.8件）、JA2.1件（前回2.1件）、県民共済・生協等2.1件（前回2.1件）となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 17）

〈図表 I - 17〉 世帯加入件数

(件)

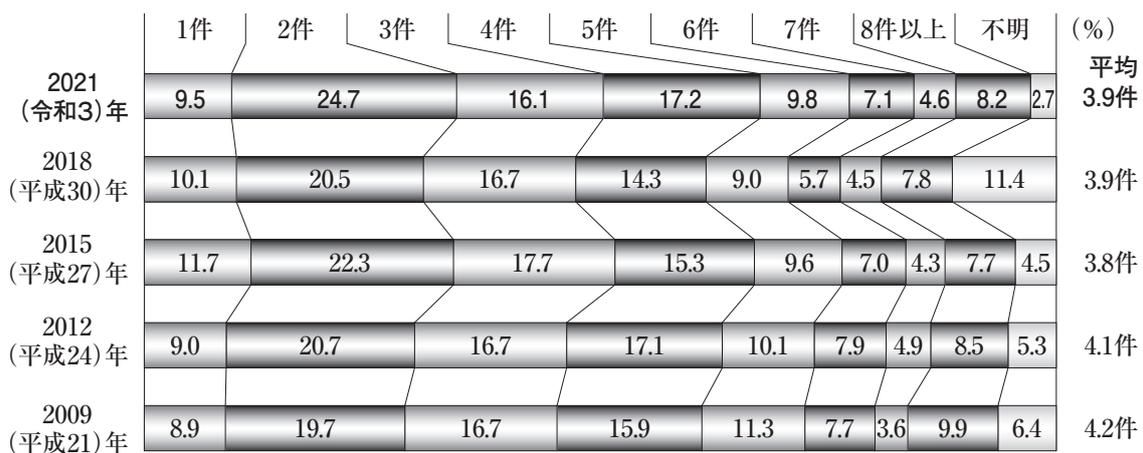
	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	J A	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	3.9 (0.0)	3.2 (0.0)	1.9 (+0.1)	1.9 (+0.1)	2.1 (0.0)	2.1 (0.0)
2018 (平成30)年	3.9 (+0.1)	3.2 (+0.1)	1.8 (▲0.1)	1.8 (0.0)	2.1 (+0.1)	2.1 (▲0.1)
2015 (平成27)年	3.8 (▲0.3)	3.1 (0.0)	1.9 (+0.2)	1.8 (▲0.1)	2.0 (▲0.3)	2.2 (0.0)
2012 (平成24)年	4.1 (▲0.1)	3.1 (+0.2)	1.7 (0.0)	1.9 (▲0.3)	2.3 (0.0)	2.2 (0.0)
2009 (平成21)年	4.2 (▲0.4)	2.9 (▲0.2)	1.7 —	2.2 (▲0.1)	2.3 (0.0)	2.2 (▲0.1)

* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

世帯加入件数（全生保）の分布をみると、「2件」が24.7%と最も多く、次いで「4件」17.2%、「3件」16.1%となっている。（図表 I - 18）

〈図表 I - 18〉 世帯加入件数（全生保）



* 全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

市郡規模別にみると、全生保、民保では「小都市」が最も多くそれぞれ4.0件、3.4件、JAでは「郡部」が最も多く2.3件となっている。(図表 I - 19)

〈図表 I - 19〉 世帯加入件数 (市郡規模別)

(件)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.9	2.1	2.1
21大都市	3.9	3.3	2.1	1.6	2.1
中 都 市	3.9	3.2	1.8	2.0	2.1
小 都 市	4.0	3.4	1.7	2.2	2.0
郡 部	3.9	3.1	(2.3)	2.3	1.9

*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

世帯主年齢別にみると、全生保では「40～44歳」から「50～54歳」および「60～64歳」で4件を超えている。(図表 I - 20)

〈図表 I - 20〉 世帯加入件数 (世帯主年齢別)

(件)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.9	2.1	2.1
29歳以下	2.9	2.7	(1.8)	(0.0)	(1.7)
30～34歳	4.0	3.5	(1.5)	(2.0)	2.5
35～39歳	3.9	3.4	(1.3)	(1.7)	2.3
40～44歳	4.1	3.2	(2.3)	2.7	2.5
45～49歳	4.4	3.5	2.0	2.6	2.2
50～54歳	4.1	3.5	(1.3)	1.7	2.1
55～59歳	3.9	3.3	(1.4)	1.8	2.0
60～64歳	4.3	3.5	(1.8)	(1.5)	2.1
65～69歳	4.0	3.2	1.7	2.3	1.9
70～74歳	3.9	3.0	2.2	2.3	2.0
75～79歳	3.2	2.6	(2.2)	2.2	1.8
80～84歳	3.0	2.6	(2.1)	(1.7)	(1.9)
85～89歳	3.5	2.9	(2.5)	(1.5)	(1.6)
90歳以上	(2.7)	(2.2)	(1.7)	(1.0)	(0.0)

*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

世帯年収別にみると、全生保、民保ともに世帯年収が高くなるほど加入件数が多く、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が4.7件、民保が4.0件となっている。(図表 I - 21)

〈図表 I - 21〉 世帯加入件数 (世帯年収別)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.9	2.1	2.1
200万円未満	2.7	2.2	2.2	1.6	1.9
200～300万円未満	3.2	2.5	2.3	1.5	2.0
300～400万円未満	3.5	2.8	1.8	2.4	2.0
400～500万円未満	3.6	3.0	1.9	1.7	2.1
500～600万円未満	4.0	3.1	1.8	2.4	2.3
600～700万円未満	4.3	3.5	2.0	1.6	2.3
700～1,000万円未満	4.6	3.7	1.9	2.2	2.2
1,000万円以上	4.7	4.0	1.5	2.5	2.2

*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 世帯員の加入件数 (個人年金保険を含む)

(a) 世帯主の加入件数 (個人年金保険を含む)

生命保険に加入している世帯主の平均加入件数(全生保)は、1.8件(前回1.9件)となっている。

機関別にみると、民保1.7件(前回1.7件)、簡保1.4件(前回1.2件)、JA1.3件(前回1.3件)、県民共済・生協等1.1件(前回1.1件)となっている。(図表 I - 22)

〈図表 I - 22〉 世帯主の加入件数

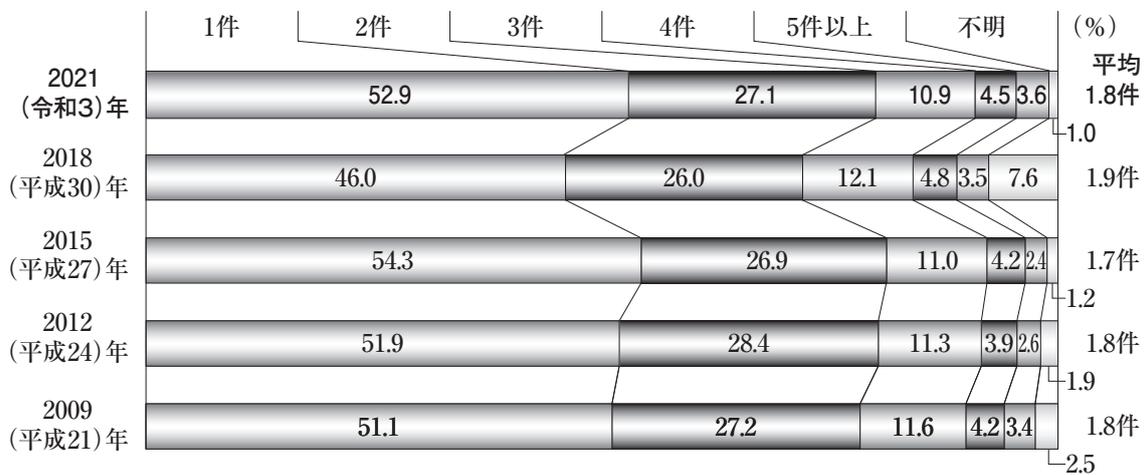
	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	1.8 (▲0.1)	1.7 (▲0.0)	1.1 (▲0.1)	1.4 (+0.2)	1.3 (0.0)	1.1 (0.0)
2018 (平成30)年	1.9 (+0.2)	1.7 (+0.1)	1.2 (0.0)	1.2 (0.0)	1.3 (+0.1)	1.1 (▲0.1)
2015 (平成27)年	1.7 (▲0.1)	1.6 (+0.1)	1.2 (0.0)	1.2 (0.0)	1.2 (▲0.1)	1.2 (0.0)
2012 (平成24)年	1.8 (0.0)	1.5 (0.0)	1.2 (0.0)	1.2 (▲0.1)	1.3 (0.0)	1.2 (0.0)
2009 (平成21)年	1.8 (▲0.2)	1.5 (▲0.1)	1.2 —	1.3 (▲0.1)	1.3 (0.0)	1.2 (0.0)

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

世帯主の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が52.9%と最も多く、「2件」（27.1%）が続いている。（図表 I - 23）

〈図表 I - 23〉 世帯主の加入件数（全生保）



*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保では「70～74歳」で2.0件と最も多くなっている。（図表 I - 24）

〈図表 I - 24〉 世帯主の加入件数（世帯主年齢別）

	平均 (件)				
	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全体	1.8	1.7	1.4	1.3	1.1
29歳以下	1.5	1.5	(1.0)	(0.0)	(1.0)
30～34歳	1.8	1.8	(1.0)	(1.3)	(1.2)
35～39歳	1.8	1.8	(0.0)	(1.2)	1.0
40～44歳	1.7	1.6	(1.6)	(1.4)	1.0
45～49歳	1.8	1.7	(1.2)	(1.5)	1.1
50～54歳	1.8	1.7	(1.0)	(1.1)	1.1
55～59歳	1.8	1.6	(1.2)	(1.1)	1.1
60～64歳	1.9	1.7	(1.2)	(1.2)	1.1
65～69歳	1.9	1.6	(1.4)	1.6	1.1
70～74歳	2.0	1.6	(1.8)	1.5	1.2
75～79歳	1.6	1.4	(1.2)	(1.3)	1.2
80～84歳	1.6	1.4	(1.4)	(1.1)	(1.2)
85～89歳	1.7	1.5	(1.3)	(1.1)	(1.0)
90歳以上	(1.6)	(1.2)	(1.3)	(1.0)	(0.0)

*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

(b) 配偶者の加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険に加入している配偶者の平均加入件数（全生保）は、1.6件（前回1.7件）となっている。
 機関別にみると、民保1.5件（前回1.5件）、簡保1.3件（前回1.3件）、JA1.2件（前回1.2件）、県民共済・生協等1.1件（前回1.1件）となっている。（図表 I - 25）

〈図表 I - 25〉 配偶者の加入件数

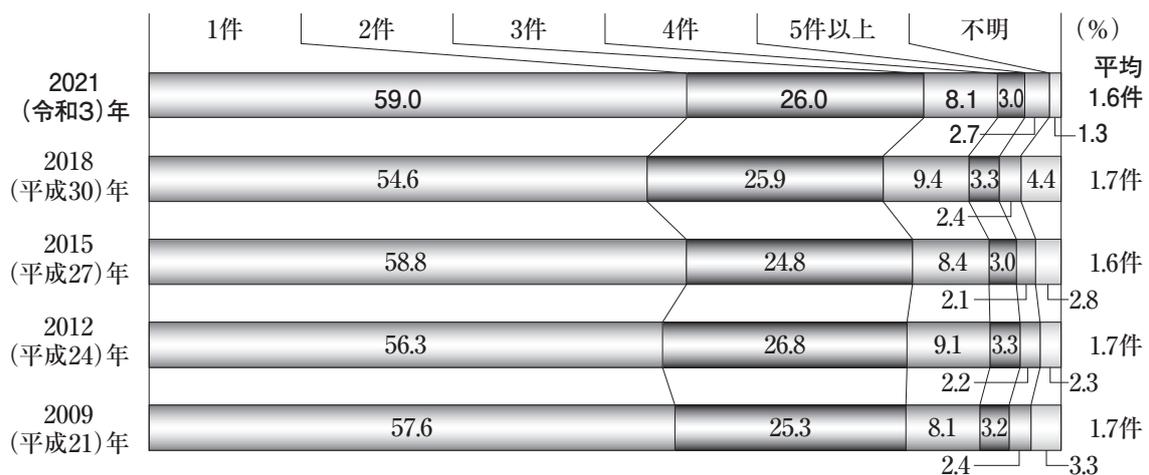
(件)

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	1.6 (▲0.1) 〔1.6 (▲0.1)〕	1.5 (0.0) 〔1.5 (0.0)〕	1.2 (▲0.1) 〔1.2 (▲0.1)〕	1.3 (0.0) 〔1.3 (+0.1)〕	1.2 (0.0) 〔1.2 (0.0)〕	1.1 (0.0) 〔1.1 (0.0)〕
2018 (平成30)年	1.7 (+0.1) 〔1.7 (+0.1)〕	1.5 (+0.1) 〔1.5 (+0.1)〕	1.3 (+0.1) 〔1.3 (+0.1)〕	1.3 (+0.1) 〔1.2 (0.0)〕	1.2 (0.0) 〔1.2 (0.0)〕	1.1 (0.0) 〔1.1 (0.0)〕
2015 (平成27)年	1.6 (▲0.1) 〔1.6 (▲0.1)〕	1.4 (0.0) 〔1.4 (0.0)〕	1.2 (+0.1) 〔1.2 (+0.1)〕	1.2 (▲0.1) 〔1.2 (▲0.1)〕	1.2 (0.0) 〔1.2 (0.0)〕	1.1 (▲0.1) 〔1.1 (0.0)〕
2012 (平成24)年	1.7 (0.0) 〔1.7 (0.0)〕	1.4 (0.0) 〔1.4 (+0.1)〕	1.1 (0.0) 〔1.1 (0.0)〕	1.3 (▲0.1) 〔1.3 (▲0.1)〕	1.2 (0.0) 〔1.2 (0.0)〕	1.2 (+0.1) 〔1.1 (0.0)〕
2009 (平成21)年	1.7 (▲0.1) 〔1.7 (▲0.1)〕	1.4 (▲0.1) 〔1.3 (▲0.1)〕	1.1 — 〔1.1 — 〕	1.4 (▲0.1) 〔1.4 (▲0.1)〕	1.2 (▲0.1) 〔1.2 (0.0)〕	1.1 (▲0.1) 〔1.1 (0.0)〕

* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 * () は前回調査との差
 * 下段は男性世帯主の配偶者

配偶者の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が59.0%と半数を超えて最も多くなっている。（図表 I - 26）

〈図表 I - 26〉 配偶者の加入件数（全生保）



* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

配偶者の年齢別にみると、全生保は「60～64歳」から「70～74歳」でいずれも1.8件と最も多くなっている。(図表 I - 27)

〈図表 I - 27〉 配偶者の加入件数 (配偶者の年齢別)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	1.6	1.5	1.3	1.2	1.1
29歳以下	1.5	1.3	(1.0)	(1.0)	(1.4)
30～34歳	1.5	1.5	(1.0)	(1.4)	(1.0)
35～39歳	1.4	1.4	(1.0)	(1.2)	1.2
40～44歳	1.6	1.5	(1.4)	(1.4)	1.1
45～49歳	1.6	1.5	(1.3)	(1.3)	1.0
50～54歳	1.7	1.5	(1.1)	(1.1)	1.0
55～59歳	1.7	1.5	(1.1)	(1.1)	1.1
60～64歳	1.8	1.5	(1.3)	(1.4)	1.1
65～69歳	1.8	1.6	(1.5)	1.2	1.1
70～74歳	1.8	1.5	(1.4)	1.3	1.1
75～79歳	1.6	1.5	(1.4)	(1.0)	1.0
80～84歳	1.4	1.3	(1.3)	(1.0)	(1.1)
85～89歳	(2.1)	(1.8)	(1.3)	(1.0)	(1.0)
90歳以上	(1.5)	(1.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*サンプルが30未満のものについては()で表示

(c) 子ども(未婚で就学前・就学中)の加入件数(個人年金保険を含む)

生命保険に加入している子ども(未婚で就学前・就学中)の平均加入件数(全生保)は、1.2件(前回1.2件)となっている。

機関別にみると、民保1.1件(前回1.1件)、かんぽ生命1.1件(前回1.1件)、簡保1.1件(前回1.1件)、JA1.1件(前回1.1件)、県民共済・生協等1.0件(前回1.0件)となっている。(図表 I - 28)

〈図表 I - 28〉 子ども(未婚で就学前・就学中)の加入件数

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	1.2 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.0 (0.0)
2018 (平成30)年	1.2 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (+0.1)	1.1 (+0.1)	1.0 (0.0)
2015 (平成27)年	1.2 (0.0)	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.0 (▲0.1)	1.0 (▲0.1)	1.0 (0.0)
2012 (平成24)年	1.2 (▲0.1)	1.1 (0.0)	1.1 —	1.1 (0.0)	1.1 (0.0)	1.0 (0.0)
2009 (平成21)年	1.3 (+0.1)	1.1 (0.0)	1.1 —	1.1 (0.0)	1.1 (+0.1)	1.0 (0.0)

*全生保は民保(かんぽ生命を除く)、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* ()は前回調査との差

(3) 加入金額

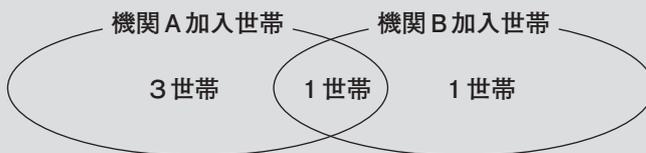
(1) 世帯加入金額とは

普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している各世帯における、その保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯の普通死亡保険金額} = \frac{\text{全世帯員の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

家族特約などにより複数の世帯員が保障されている場合には、その金額も世帯加入金額に含まれている。

なお、全生保の世帯加入金額は、4機関（民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等）のうちいずれかに加入している世帯の平均加入金額であるため、平均金額の低い機関の世帯加入金額にひきずられて特定の1機関の世帯加入金額より全生保の加入金額が下回ることもある。たとえば機関Aに加入している4世帯がいずれも加入金額50万円、機関Bに加入している2世帯がいずれも加入金額1,000万円で、うちA、B双方の機関に加入している世帯が1世帯であるとすると、機関Aの平均加入金額は50万円、機関Bの平均加入金額は1,000万円、全生保の平均加入金額は440万円となる。



$$\text{機関Aの世帯加入金額} = \frac{50\text{万円} \times 4\text{世帯}}{\text{全}4\text{世帯}} = 50\text{万円}$$

$$\text{機関Bの世帯加入金額} = \frac{1,000\text{万円} \times 2\text{世帯}}{\text{全}2\text{世帯}} = 1,000\text{万円}$$

$$\text{全生保の世帯加入金額} = \frac{(50\text{万円} \times 4\text{世帯}) + (1,000\text{万円} \times 2\text{世帯})}{\text{全}5\text{世帯}} = 440\text{万円}$$

保険金・給付金の種類別の特色についてみると次のとおりである。

① 普通死亡保険金

死亡時期により受取金額が異なる場合、現時点での金額で計算されている。また、死亡保険金を年金で受け取る契約や特約に加入している場合には、総受取金額で計算されている。

② 疾病入院給付金日額

ガンのみを対象とした入院や成人病等の特定疾病を対象とした入院のみに限定して支払われる入院給付金は含まれていない。

(2) 世帯主の加入金額とは

世帯主が、普通死亡保険金、疾病入院給付金日額の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、世帯主の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。(普通死亡保険金の例)

$$\text{世帯主の普通死亡保険金額} = \frac{\text{世帯主の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{世帯主が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

* 疾病入院給付金日額も同様の計算方法で算出している。

世帯主の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である世帯主が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の世帯主の加入金額が特定の1機関の世帯主の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

(3) 配偶者の加入金額とは

配偶者が、普通死亡保険金、疾病入院給付金日額の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、配偶者の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。(普通死亡保険金の例)

$$\text{配偶者の普通死亡保険金額} = \frac{\text{配偶者の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{配偶者が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

* 疾病入院給付金日額も同様の計算方法で算出している。

配偶者の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である配偶者が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の配偶者の加入金額が特定の1機関の配偶者の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

(ア) 普通死亡保険金

(a) 世帯の普通死亡保険金

世帯の普通死亡保険金額（全生保）の平均は2,027万円（前回2,255万円）と前回に比べ228万円減少した。

これを機関別にみると、民保では1,927万円（前回2,079万円）、簡保は410万円（前回491万円）、JAは1,304万円（前回1,867万円）、県民共済・生協等は591万円（前回731万円）となっている。

時系列でみると、民保は減少傾向が続いており、前回から152万円の減少となっている。（図表 I - 29）

〈図表 I - 29〉 世帯の普通死亡保険金額

(万円)

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	2,027 (▲228)	1,927 (▲152)	497 (▲54)	410 (▲81)	1,304 (▲563)	591 (▲140)
2018 (平成30)年	2,255 (▲168)	2,079 (▲256)	551 (▲15)	491 (▲49)	1,867 (+94)	731 (▲4)
2015 (平成27)年	2,423 (▲340)	2,335 (▲171)	566 (+18)	540 (▲48)	1,773 (▲520)	735 (▲95)
2012 (平成24)年	2,763 (▲215)	2,506 (▲252)	548 (▲58)	588 (▲88)	2,293 (+1)	830 (▲31)
2009 (平成21)年	2,978 (▲366)	2,758 (▲297)	606 —	676 (▲33)	2,292 (▲484)	861 (+85)

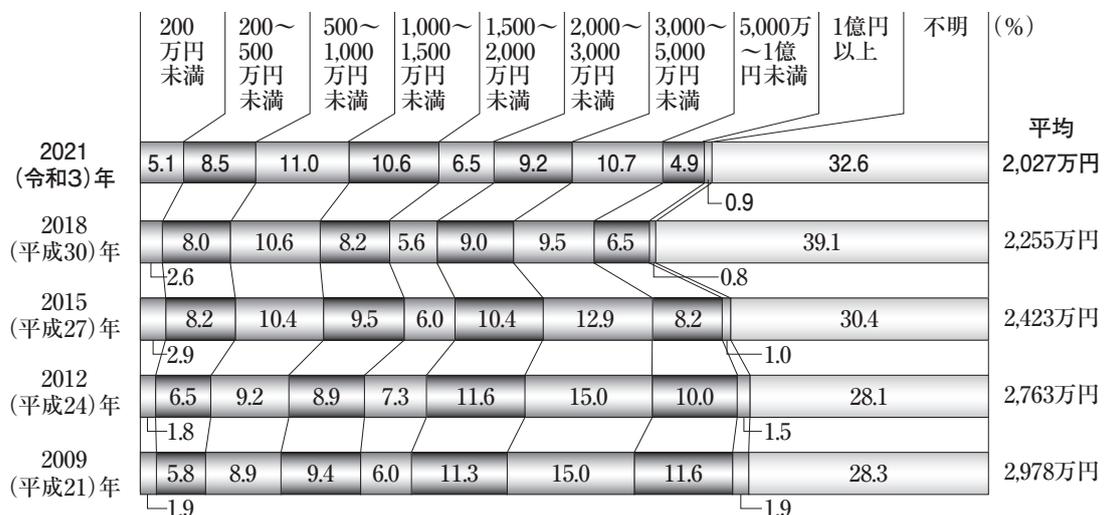
* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

世帯の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「500～1,000万円未満」が11.0%と最も多く、以下「3,000～5,000万円未満」（10.7%）、「1,000～1,500万円未満」（10.6%）が続いている。

時系列でみると、「1,000～1,500万円未満」（前回8.2%）が2.4ポイント増加し、「5,000万～1億円未満」（前回6.5%）が1.6ポイント減少している。（図表 I - 30）

〈図表 I - 30〉 世帯の普通死亡保険金額（全生保）



* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「45～49歳」で最も高く2,980万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」、「40～44歳」、「50～54歳」、「55～59歳」の層では2009（平成21）年以降一貫して減少傾向が続いている。（図表 I - 31）

〈図表 I - 31〉 世帯普通死亡保険金額（全生保）（世帯主年齢別）

（万円）

	2009 （平成21）年	2012 （平成24）年	2015 （平成27）年	2018 （平成30）年	2021 （令和3）年
全 体	2,978	2,763	2,423	2,255	2,027
29歳以下	2,583	1,902	2,405	2,475	1,754
30～34歳	3,082	3,126	3,093	2,883	2,516
35～39歳	3,636	3,203	3,050	2,857	2,525
40～44歳	4,130	3,760	3,277	3,032	2,714
45～49歳	3,822	3,918	3,287	3,050	2,980
50～54歳	3,932	3,789	3,388	3,183	2,296
55～59歳	3,543	3,202	3,175	2,618	2,312
60～64歳	2,684	2,545	2,362	2,493	2,033
65～69歳	2,032	1,725	1,799	1,615	1,478
70～74歳	1,881	1,661	1,288	1,367	1,460
75～79歳	1,663	1,586	989	1,210	1,058
80～84歳	1,522	1,214	1,411	1,059	876
85～89歳	925	2,074	692	1,019	1,104
90歳以上	2,316	1,200	1,802	1,336	684

* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* 90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「45～49歳」で最も高く2,837万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」、「40～44歳」、「50～54歳」の層では2009（平成21）年以降一貫して減少傾向が続いている。（図表 I - 32）

〈図表 I - 32〉 世帯普通死亡保険金額（民保）（世帯主年齢別）

（万円）

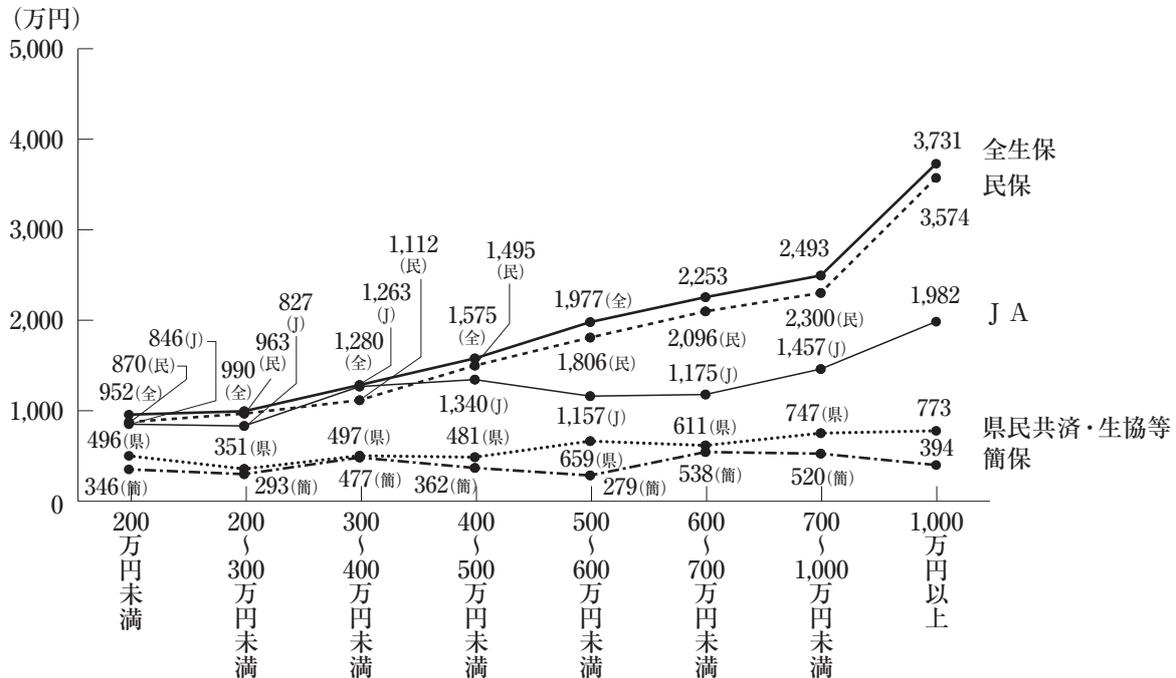
	2009 （平成21）年	2012 （平成24）年	2015 （平成27）年	2018 （平成30）年	2021 （令和3）年
全 体	2,758	2,506	2,335	2,079	1,927
29歳以下	2,639	1,845	2,337	2,289	1,943
30～34歳	3,009	3,042	3,145	2,728	2,273
35～39歳	3,297	3,088	2,921	2,666	2,589
40～44歳	3,834	3,460	2,981	2,968	2,516
45～49歳	3,370	3,621	3,214	2,721	2,837
50～54歳	3,617	3,314	3,215	2,850	2,286
55～59歳	3,096	2,806	3,032	2,320	2,086
60～64歳	2,406	2,078	2,215	2,296	1,789
65～69歳	1,785	1,540	1,766	1,534	1,375
70～74歳	1,721	1,435	1,211	1,209	1,329
75～79歳	1,604	1,413	972	1,172	987
80～84歳	1,435	1,245	1,351	979	863
85～89歳	1,448	1,976	646	1,044	1,150
90歳以上	2,067	1,333	1,986	1,459	588

* かんぽ生命を含む

* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保と民保ともに世帯年収が高くなるほど加入金額も高く、世帯年収「1,000万円以上」では、全生保が3,731万円、民保が3,574万円となっている。(図表 I - 33)

〈図表 I - 33〉 世帯の普通死亡保険金額 (世帯年収別)



* 全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 * 簡保、JAの200万円未満はサンプルが30未満

(b) 世帯員の普通死亡保険金

(i) 世帯主の普通死亡保険金

世帯主の普通死亡保険金額 (全生保) の平均は、1,386万円 (前回1,406万円) となっている。

これを機関別にみると、民保では1,385万円 (前回1,368万円)、簡保は405万円 (前回351万円)、JAは1,142万円 (前回1,280万円)、県民共済・生協等は483万円 (前回495万円) となっている。(図表 I - 34)

〈図表 I - 34〉 世帯主の普通死亡保険金額

(万円)

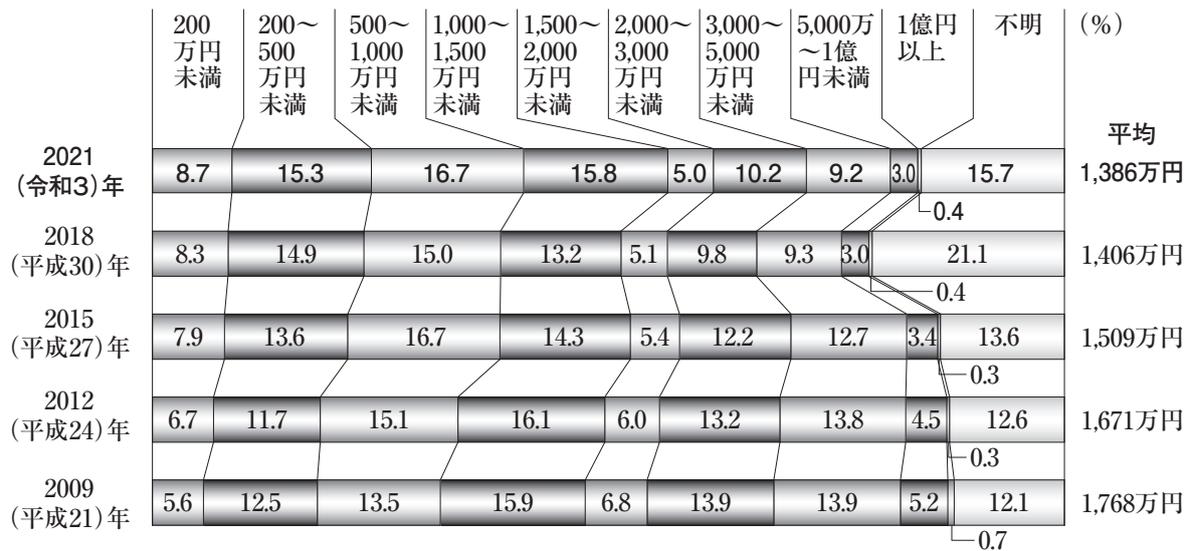
	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3)年	1,386 (▲20)	1,385 (+17)	407 (+7)	405 (+54)	1,142 (▲138)	483 (▲12)
2018 (平成30)年	1,406 (▲103)	1,368 (▲154)	400 (▲22)	351 (▲60)	1,280 (▲70)	495 (▲26)
2015 (平成27)年	1,509 (▲162)	1,522 (▲133)	422 (▲6)	411 (▲11)	1,350 (▲171)	521 (▲77)
2012 (平成24)年	1,671 (▲97)	1,655 (▲132)	428 (+8)	422 (▲23)	1,521 (▲103)	598 (+15)
2009 (平成21)年	1,768 (▲278)	1,787 (▲235)	420 —	445 (▲38)	1,624 (▲116)	583 (+16)

* 全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 * () は前回調査との差

世帯主の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「500～1,000万円未満」が16.7%と最も多く、以下「1,000～1,500万円未満」（15.8%）、「200～500万円未満」（15.3%）、の順で続いている。

時系列でみると、「1,000～1,500万円未満」（前回13.2%）が2.6ポイント、「500～1,000万円未満」（前回15.0%）が1.7ポイント、それぞれ増加している。（図表 I - 35）

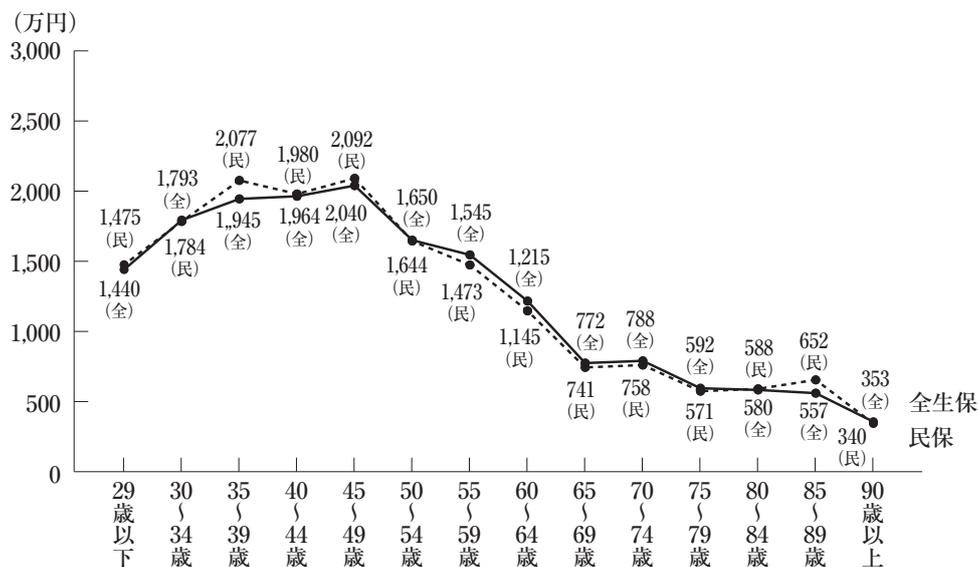
〈図表 I - 35〉 世帯主の普通死亡保険金額（全生保）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保と民保ともに「45～49歳」で最も高く、全生保は2,040万円、民保は2,092万円となっている。（図表 I - 36）

〈図表 I - 36〉 世帯主の普通死亡保険金額（世帯主年齢別）

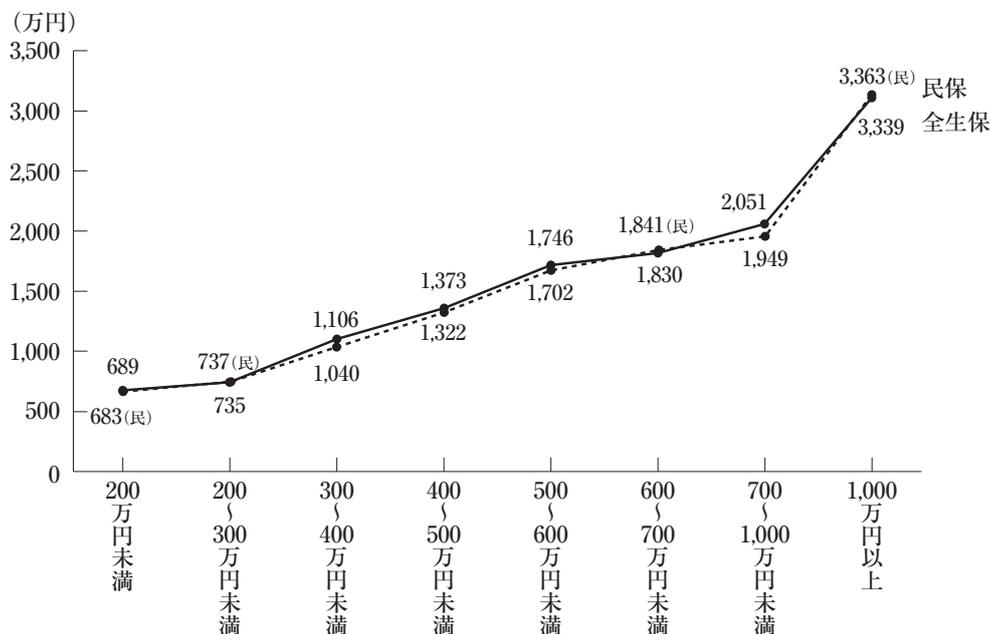


*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

世帯主年収別にみると、全生保と民保いずれも世帯主年収が高くなるほど加入金額も高くなっており、世帯主年収「1,000万円以上」では、全生保が3,339万円、民保が3,363万円となっている。(図表 I - 37)

〈図表 I - 37〉 世帯主の普通死亡保険金額 (世帯主年収別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(ii) 配偶者の普通死亡保険金

配偶者の普通死亡保険金額 (全生保) の平均は、692万円 (前回767万円) と前回に比べ75万円減少している。

これを機関別にみると、民保では683万円 (前回718万円)、簡保は326万円 (前回311万円)、JAは726万円 (前回936万円)、県民共済・生協等は322万円 (前回338万円) となっている。

時系列でみると、JAは前回から210万円の減少となっている。(図表 I - 38)

〈図表 I - 38〉 配偶者の普通死亡保険金額

(万円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3)年	692 (▲75) 〔689 (▲69)〕	683 (▲35) 〔679 (▲29)〕	336 (0) 〔336 (+2)〕	326 (+15) 〔328 (+19)〕	726 (▲210) 〔726 (▲209)〕	322 (▲16) 〔322 (▲16)〕
2018 (平成30)年	767 (▲38) 〔758 (▲49)〕	718 (▲55) 〔708 (▲69)〕	336 (▲12) 〔334 (▲16)〕	311 (▲37) 〔309 (▲39)〕	936 (+35) 〔935 (+34)〕	338 (+10) 〔338 (+10)〕
2015 (平成27)年	805 (▲87) 〔807 (▲82)〕	773 (▲53) 〔777 (▲44)〕	348 (▲7) 〔350 (▲5)〕	348 (▲25) 〔348 (▲25)〕	901 (▲156) 〔901 (▲161)〕	328 (▲80) 〔328 (▲77)〕
2012 (平成24)年	892 (0) 〔889 (+3)〕	826 (▲11) 〔821 (▲9)〕	355 (+12) 〔355 (+27)〕	373 (▲11) 〔373 (▲11)〕	1,057 (▲37) 〔1,062 (▲33)〕	408 (+15) 〔405 (+12)〕
2009 (平成21)年	892 (▲114) 〔886 (▲116)〕	837 (▲91) 〔830 (▲94)〕	343 — 〔328 —〕	384 (▲14) 〔384 (▲14)〕	1,094 (▲175) 〔1,095 (▲181)〕	393 (+26) 〔393 (+25)〕

*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

* 下段は男性世帯主の配偶者

配偶者の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「200～500万円未満」が23.0%と最も多く、以下「500～1,000万円未満」（18.7%）、「200万円未満」（13.3%）が続いている。（図表 I - 39）

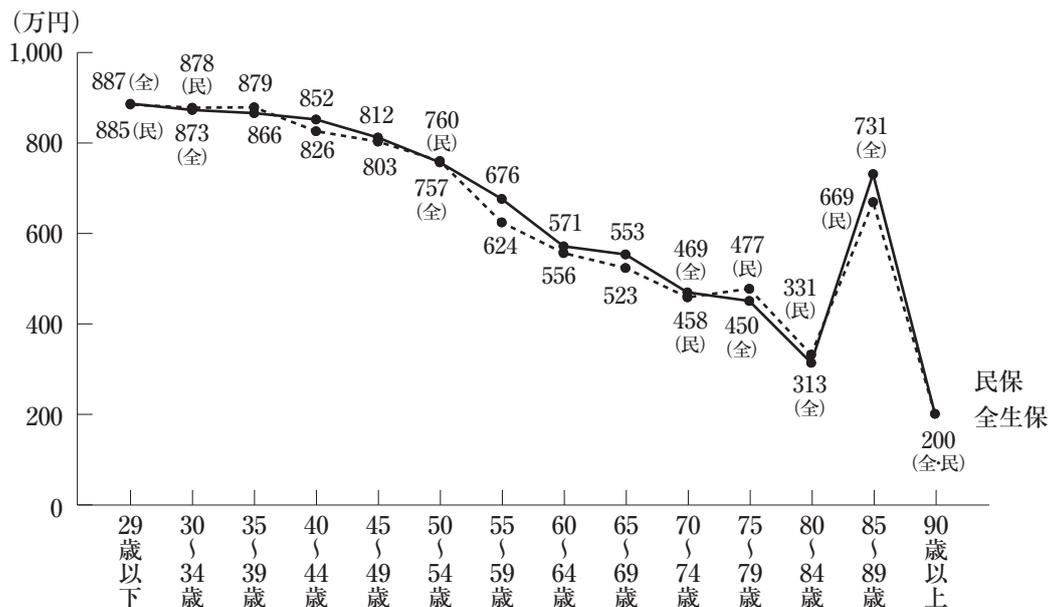
〈図表 I - 39〉 配偶者の普通死亡保険金額（全生保）

	200万円未満	200～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	1,500～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	不明	(%)	平均
2021 (令和3)年	13.3	23.0	18.7	13.2	3.4	3.2	23.1			692万円
2018 (平成30)年	11.3	21.3	16.7	12.4	3.3	4.7	28.0	-2.1		767万円
2015 (平成27)年	12.3	19.3	20.2	14.7	4.8	5.5	20.5	2.3		805万円
2012 (平成24)年	10.7	20.9	20.4	16.1	5.2	7.0	16.0	3.7		892万円
2009 (平成21)年	10.4	20.4	19.8	17.1	4.3	6.7	17.1	4.2		892万円

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

配偶者の年齢別にみると、全生保、民保ともに「29歳以下」で、それぞれ最も高くなっている。（図表 I - 40）

〈図表 I - 40〉 配偶者の普通死亡保険金額（配偶者の年齢別）

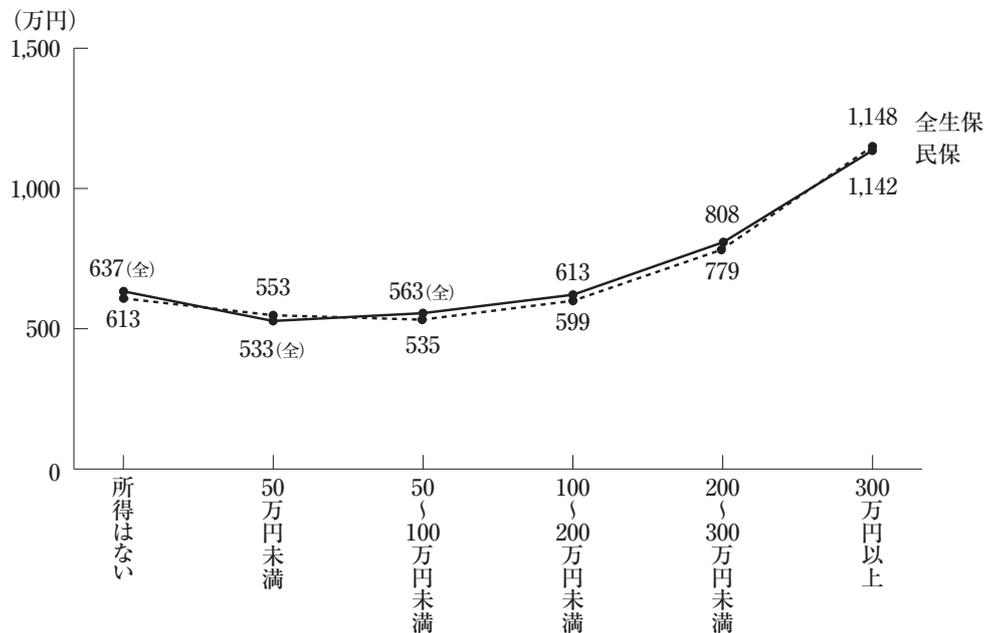


*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*全生保は90歳以上、民保は85～89歳、90歳以上でサンプルが30未満

配偶者の年収別にみると、全生保と民保ともに配偶者の年収「300万円以上」で最も高く、全生保が1,148万円、民保が1,142万円となっている。(図表 I - 41)

〈図表 I - 41〉 配偶者の普通死亡保険金額 (配偶者の年収別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 疾病入院給付金

(a) 世帯員の疾病入院給付金

(i) 世帯主の疾病入院給付金

世帯主の疾病入院給付金日額 (全生保) の平均は、9.8千円 (前回9.9千円) と前回と比較すると差異はみられなかった。

これを機関別にみると、民保では9.2千円 (前回9.1千円)、簡保は6.6千円 (前回5.7千円)、JAは10.3千円 (前回7.6千円)、県民共済・生協等は6.3千円 (前回6.2千円) となっている。(図表 I - 42)

〈図表 I - 42〉 世帯主の疾病入院給付金日額

(千円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3)年	9.8 (▲0.1)	9.2 (+0.1)	6.8 (+0.7)	6.6 (+0.9)	10.3 (+2.7)	6.3 (+0.1)
2018 (平成30)年	9.9 (+0.3)	9.1 (+0.2)	6.1 (▲0.1)	5.7 (▲0.2)	7.6 (+0.2)	6.2 (0.0)
2015 (平成27)年	9.6 (▲0.4)	8.9 (▲0.3)	6.2 (▲0.1)	5.9 (▲0.3)	7.4 (▲0.2)	6.2 (+0.1)
2012 (平成24)年	10.0 (▲0.4)	9.2 (0.0)	6.3 (▲0.6)	6.2 (▲0.4)	7.6 (+0.2)	6.1 (▲0.1)
2009 (平成21)年	10.4 (▲0.3)	9.2 (▲0.2)	6.9 —	6.6 (▲0.1)	7.4 (▲0.2)	6.2 (+0.5)

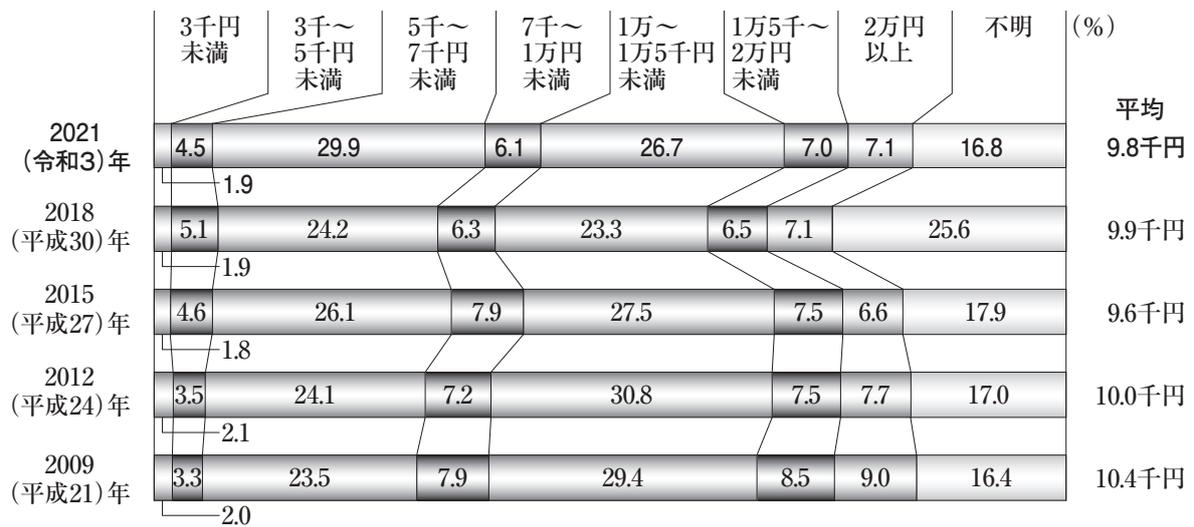
*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が最も多く29.9%、次いで「1万～1万5千円未満」が26.7%となっている。

時系列でみると、「5千～7千円未満」（前回24.2%）が5.7ポイント、「1万～1万5千円未満」（前回23.3%）が3.4ポイント、それぞれ増加している。（図表I-43）

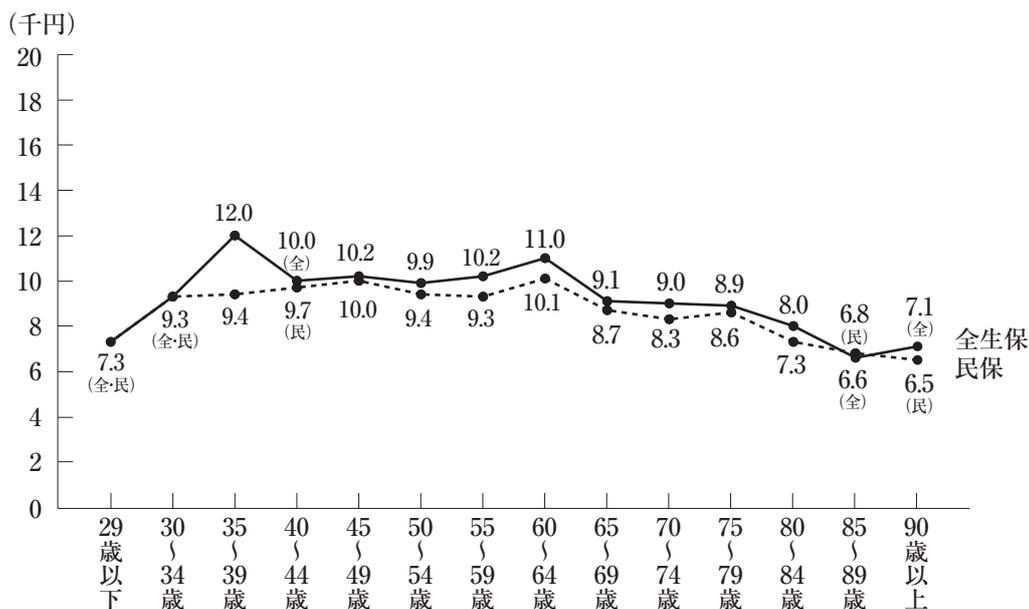
〈図表I-43〉 世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保では「35～39歳」が12.0千円、民保では「60～64歳」が10.1千円と最も高くなっている。（図表I-44）

〈図表I-44〉 世帯主の疾病入院給付金日額（世帯主年齢別）

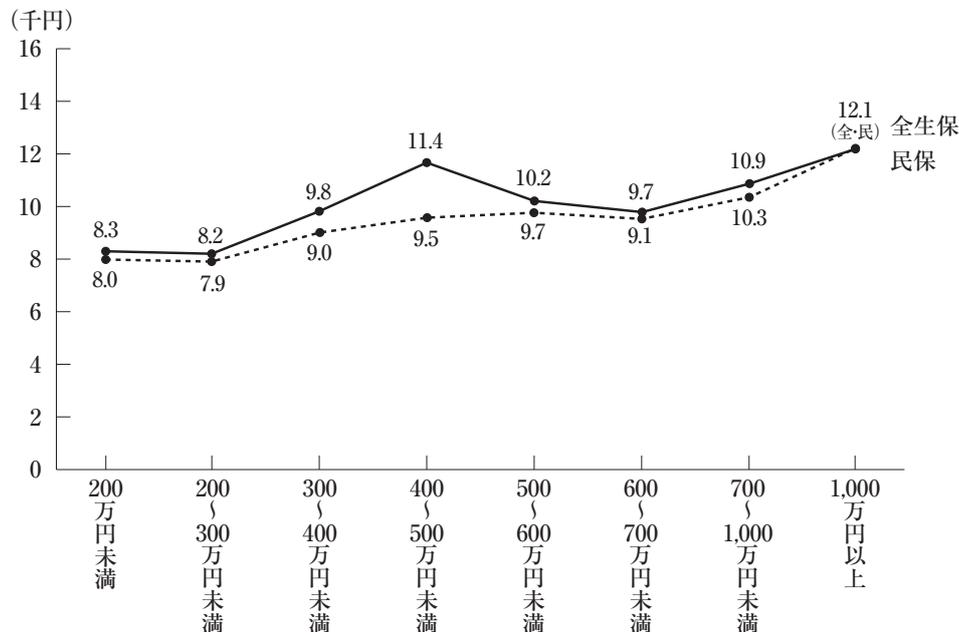


*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

世帯主年収別にみると、全生保と民保ともに概ね世帯主年収が高くなるほど加入金額が高く、全生保の「400～500万円未満」、「500～600万円未満」の層、および全生保、民保の「700万円以上」の層では1万円台となっている。(図表I-45)

〈図表I-45〉 世帯主の疾病入院給付金日額（世帯主年収別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(ii) 配偶者の疾病入院給付金

配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）の平均は、8.1千円（前回8.4千円）となっている。

これを機関別にみると、民保では7.7千円（前回7.6千円）、簡保は5.9千円（前回5.2千円）、JAは6.9千円（前回6.6千円）、県民共済・生協等は5.7千円（前回5.5千円）となっている。(図表I-46)

〈図表I-46〉 配偶者の疾病入院給付金日額

(千円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
2021 (令和3)年	8.1 (▲0.3) [8.2 (▲0.2)]	7.7 (+0.1) [7.7 (+0.1)]	6.1 (+0.5) [6.1 (+0.6)]	5.9 (+0.7) [5.9 (+0.7)]	6.9 (+0.3) [6.9 (+0.2)]	5.7 (+0.2) [5.7 (+0.2)]
2018 (平成30)年	8.4 (+0.1) [8.4 (+0.1)]	7.6 (+0.1) [7.6 (+0.1)]	5.6 (+0.4) [5.5 (+0.3)]	5.2 (0.0) [5.2 (0.0)]	6.6 (▲0.2) [6.7 (▲0.1)]	5.5 (+0.2) [5.5 (+0.2)]
2015 (平成27)年	8.3 (▲0.2) [8.3 (▲0.2)]	7.5 (▲0.2) [7.5 (▲0.2)]	5.2 (0.0) [5.2 (▲0.2)]	5.2 (▲0.1) [5.2 (▲0.1)]	6.8 (▲0.1) [6.8 (▲0.1)]	5.3 (+0.1) [5.3 (+0.1)]
2012 (平成24)年	8.5 (0.0) [8.5 (0.0)]	7.7 (+0.4) [7.7 (+0.4)]	5.2 (+0.3) [5.4 (+0.6)]	5.3 (▲0.3) [5.3 (▲0.3)]	6.9 (+0.5) [6.9 (+0.5)]	5.2 (▲0.2) [5.2 (▲0.2)]
2009 (平成21)年	8.5 (▲0.3) [8.5 (▲0.3)]	7.3 (▲0.1) [7.3 (▲0.1)]	4.9 — [4.8 —]	5.6 (▲0.3) [5.6 (▲0.3)]	6.4 (▲0.3) [6.4 (▲0.3)]	5.4 (+0.4) [5.4 (+0.4)]

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

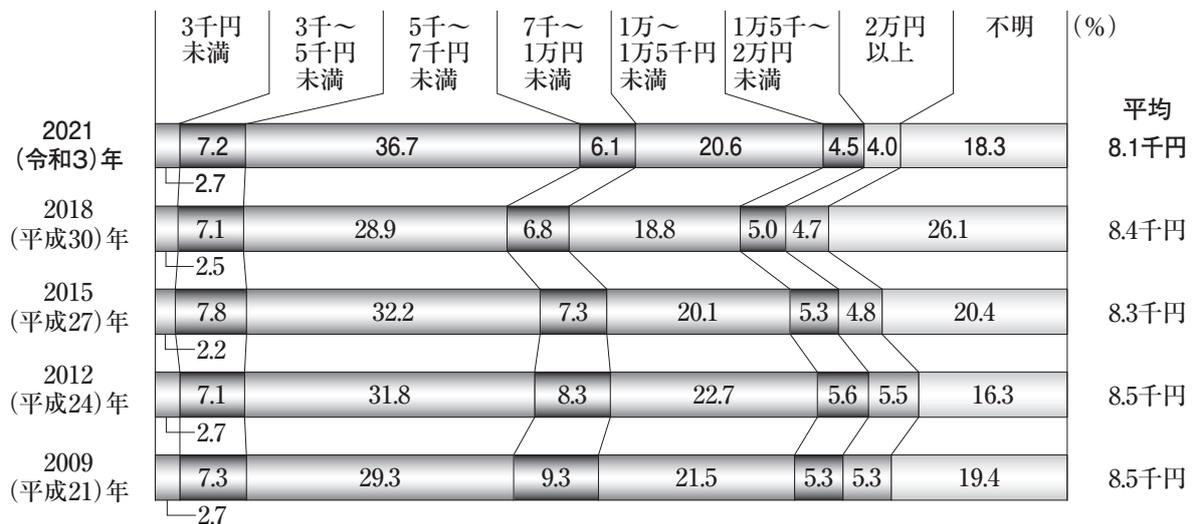
* () は前回調査との差

* 下段は男性世帯主の配偶者

配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が36.7%と最も多く、「1万～1万5千円未満」（20.6%）が続いている。

時系列でみると、「5千～7千円未満」（前回29.7%）が7.0ポイント増加している。（図表I-47）

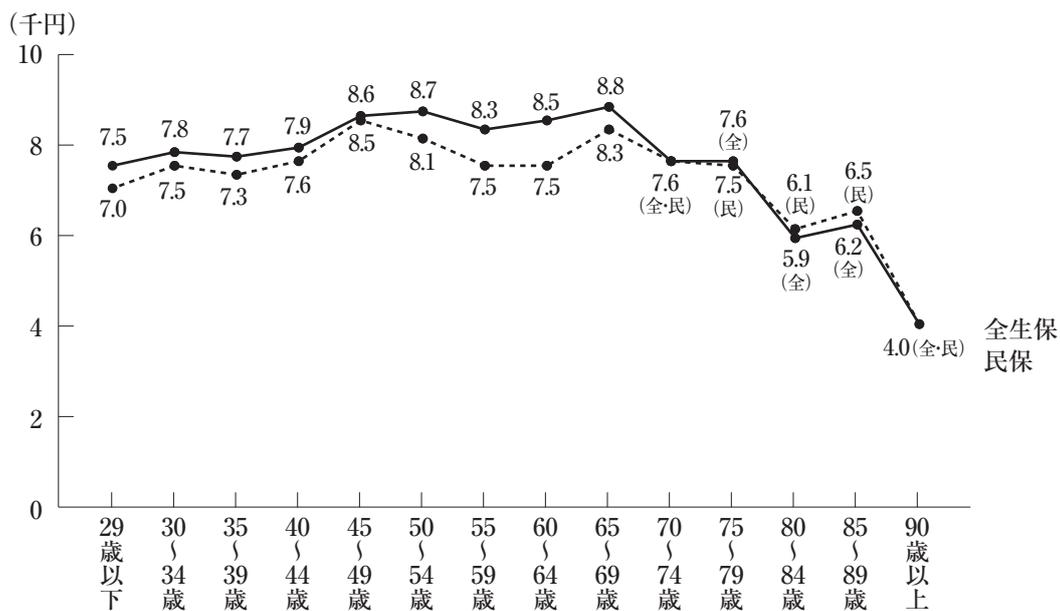
〈図表I-47〉 配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

配偶者の年齢別にみると、全生保では「65～69歳」が8.8千円、民保では「45～49歳」が8.5千円と最も高くなっている。（図表I-48）

〈図表I-48〉 配偶者の疾病入院給付金日額（配偶者の年齢別）

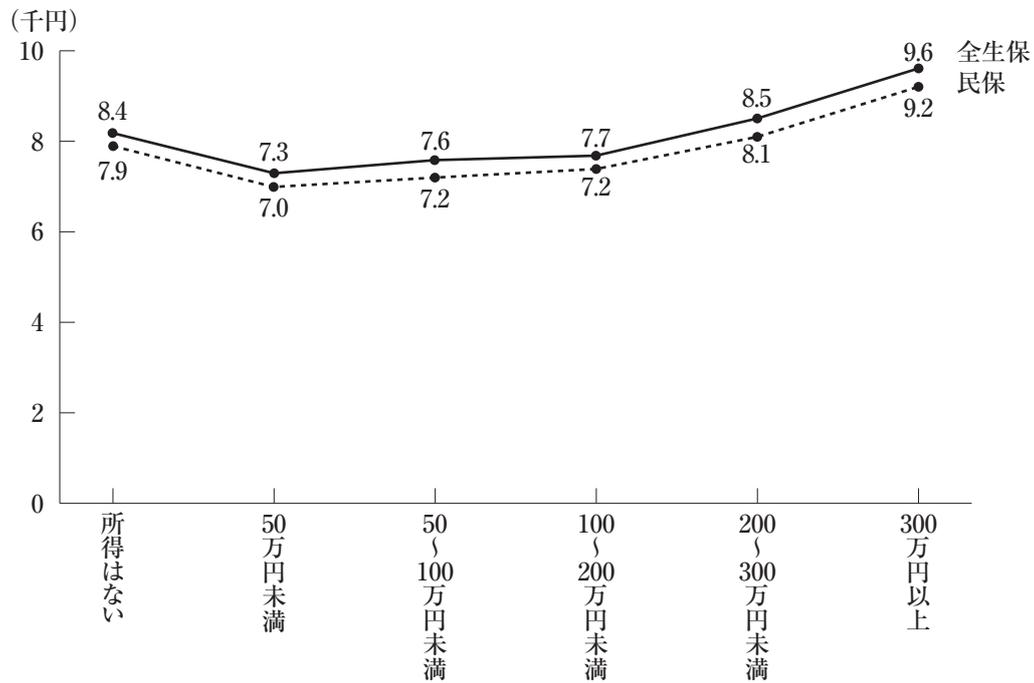


*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*85～89歳、90歳以上はサンプルが30未満

配偶者の年収別にみると、全生保と民保ともに「300万円以上」で最も高く、全生保が9.6千円、民保が9.2千円となっている。(図表 I - 49)

〈図表 I - 49〉 配偶者の疾病入院給付金日額 (配偶者の年収別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(4) 生命保険（個人年金保険を含む）の世帯年間払込保険料

世帯年間払込保険料とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における保険料払込期間中（本調査時点）の契約について、1年間に払い込む保険料の世帯総額の平均額を示している。これを式に表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料} = \frac{\text{全世帯員の年間払込保険料の総合計}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

- (a) 「保険料払込期間中の契約」には、一時払いで払い込んだ保険料、頭金制度を利用して払い込んだ保険料、払込が完了している契約の既払込保険料を含めていない。
- (b) 配当金の分だけ保険料の払込が少なくなる契約は、実際に払い込んだ保険料（実質負担額）を集計対象としている。
- (c) 世帯年間払込保険料の中には個人年金保険の保険料も含まれている。

世帯の平均年間払込保険料（全生保）は、37.1万円（前回38.2万円）となっている。

これを機関別にみると、民保では35.9万円（前回36.2万円）、簡保は20.3万円（前回22.8万円）、JAは22.8万円（前回25.2万円）、県民共済・生協等は7.6万円（前回7.7万円）となっている。（図表 I - 50）

〈図表 I - 50〉 世帯年間払込保険料

(万円)

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
2021 (令和3)年	37.1 (▲1.1)	35.9 (▲0.3)	33.5 (+4.4)	20.3 (▲2.5)	22.8 (▲2.4)	7.6 (▲0.1)
2018 (平成30)年	38.2 (▲0.3)	36.2 (▲0.8)	29.1 (+2.9)	22.8 (+0.6)	25.2 (▲2.5)	7.7 (▲0.5)
2015 (平成27)年	38.5 (▲3.1)	37.0 (+0.5)	26.2 (+2.8)	22.2 (▲1.9)	27.7 (▲2.7)	8.2 (0.0)
2012 (平成24)年	41.6 (▲3.8)	36.5 (▲0.9)	23.4 (▲1.5)	24.1 (▲4.4)	30.4 (+0.3)	8.2 (▲0.2)
2009 (平成21)年	45.4 (▲7.2)	37.4 (▲2.2)	24.9 —	28.5 (▲1.4)	30.1 (▲0.3)	8.4 (+0.7)

* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

* () は前回調査との差

世帯年間払込保険料（全生保）の分布をみると、「12万円未満」が19.3%と最も多く、「12～24万円未満」（17.6%）、「24～36万円未満」（16.0%）が続いている。

時系列でみると「12万円未満」（前回14.8%）が4.5ポイント、「24～36万円未満」（前回12.9%）が3.1ポイント、それぞれ増加している。（図表 I - 51）

〈図表 I - 51〉 世帯年間払込保険料（全生保）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯の平均年間払込保険料について世帯主年齢別にみると、「55～59歳」、「65～69歳」でともに最も高く、43.6万円となっている。

時系列でみると、「45～49歳」と「55～59歳」で2009（平成21）年以降、「50～54歳」で2012（平成24）年以降減少傾向が続いている。（図表 I - 52）

〈図表 I - 52〉 世帯年間払込保険料（全生保）（世帯主年齢別）

	2009 (平成21)年	2012 (平成24)年	2015 (平成27)年	2018 (平成30)年	2021 (令和3)年
全体	45.4	41.6	38.5	38.2	37.1
29歳以下	31.7	20.2	24.2	23.3	21.5
30～34歳	33.1	31.0	27.6	29.8	26.2
35～39歳	37.0	31.7	32.9	38.0	38.2
40～44歳	46.9	40.3	41.0	34.5	34.8
45～49歳	51.3	46.2	44.2	42.7	37.5
50～54歳	47.6	51.8	49.8	48.3	43.2
55～59歳	55.1	51.3	49.2	45.3	43.6
60～64歳	48.2	43.4	43.4	43.9	38.4
65～69歳	42.1	39.4	33.9	33.8	43.6
70～74歳	43.1	36.9	30.7	29.9	33.7
75～79歳	43.8	32.9	30.0	35.3	31.4
80～84歳	48.7	43.9	30.6	29.5	28.6
85～89歳	16.9	73.9	21.1	36.5	35.8
90歳以上	64.2	23.6	21.4	22.5	25.6

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯の平均年間払込保険料について世帯主年齢別にみると、「65～69歳」で最も高く42.3万円となっている。

前回と比較すると、「65～69歳」、「70～74歳」の層では5万円以上増加し、「45～49歳」、「60～64歳」の層では5万円以上減少している。(図表 I - 53)

〈図表 I - 53〉 世帯年間払込保険料（民保）（世帯主年齢別）

(万円)

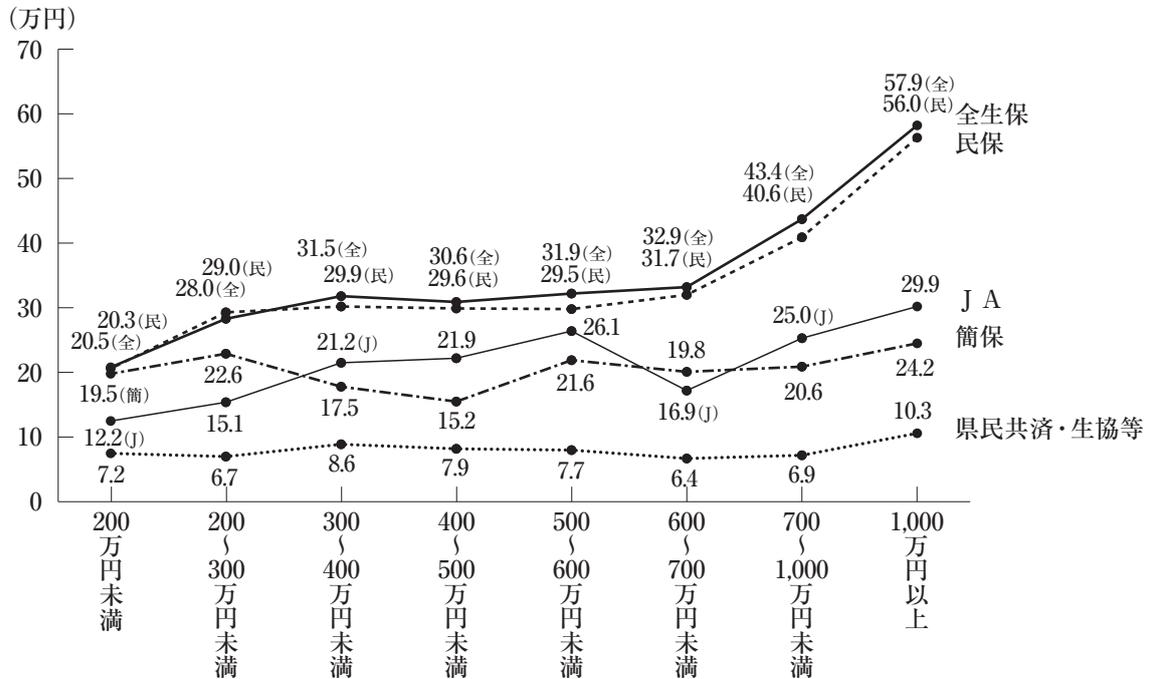
	2009 (平成21)年	2012 (平成24)年	2015 (平成27)年	2018 (平成30)年	2021 (令和3)年
全 体	37.4	36.5	37.0	36.2	35.9
29歳以下	33.8	22.0	25.1	24.2	21.3
30～34歳	29.5	30.4	26.1	27.9	24.6
35～39歳	31.9	28.3	32.0	37.3	39.1
40～44歳	39.5	35.6	38.4	33.6	33.1
45～49歳	38.7	40.0	40.7	39.9	34.7
50～54歳	38.0	46.2	50.0	43.8	42.2
55～59歳	45.9	43.5	47.4	41.8	42.2
60～64歳	40.6	38.4	38.9	44.5	37.0
65～69歳	32.6	33.6	33.8	32.1	42.3
70～74歳	34.6	30.6	31.5	26.8	31.9
75～79歳	33.5	31.4	27.5	32.8	31.0
80～84歳	44.2	34.0	30.7	28.3	30.2
85～89歳	18.3	68.3	17.4	38.9	30.1
90歳以上	37.2	21.2	21.7	23.6	18.1

* かんぽ生命を含む

* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保、民保とも概ね世帯年収が高くなるほど払込保険料が高くなっており、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が57.9万円、民保が56.0万円となっている。(図表 I - 54)

〈図表 I - 54〉 世帯年間払込保険料 (世帯年収別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*簡保の200万円未満、200～300万円未満、600～700万円未満、およびJAの200万円未満はサンプルが30未満

(5) 世帯年間払込保険料対世帯年収比率

世帯年間払込保険料対世帯年収比率とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における、世帯年間払込保険料の世帯年収に占める割合のことで、サンプル（世帯）ごとにこの比率を計算したものを合計し、生命保険に加入している世帯数で除することによって算出している。これを式で表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料対世帯年収比率} = \frac{\Sigma (\text{各サンプルの世帯年間払込保険料} / \text{各サンプルの世帯年収})}{\text{生命保険に加入している世帯数}} \times 100$$

生命保険（個人年金保険を含む）加入世帯における年間払込保険料の世帯年収に占める割合をみると、全生保では6.7%（前回7.2%）、民保では6.4%（前回6.7%）となっている。（図表 I - 55）

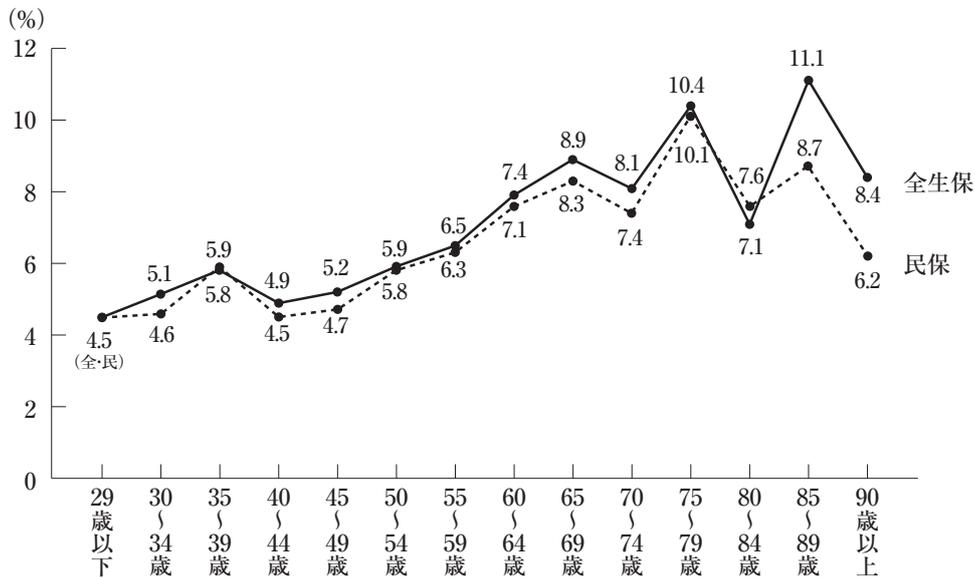
〈図表 I - 55〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率
(%)

	全生保	民保
2021 (令和3)年	6.7	6.4
2018 (平成30)年	7.2	6.7
2015 (平成27)年	7.4	7.0
2012 (平成24)年	8.0	6.9
2009 (平成21)年	8.7	7.1

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「75～79歳」で1割を超えている。(図表 I - 56)

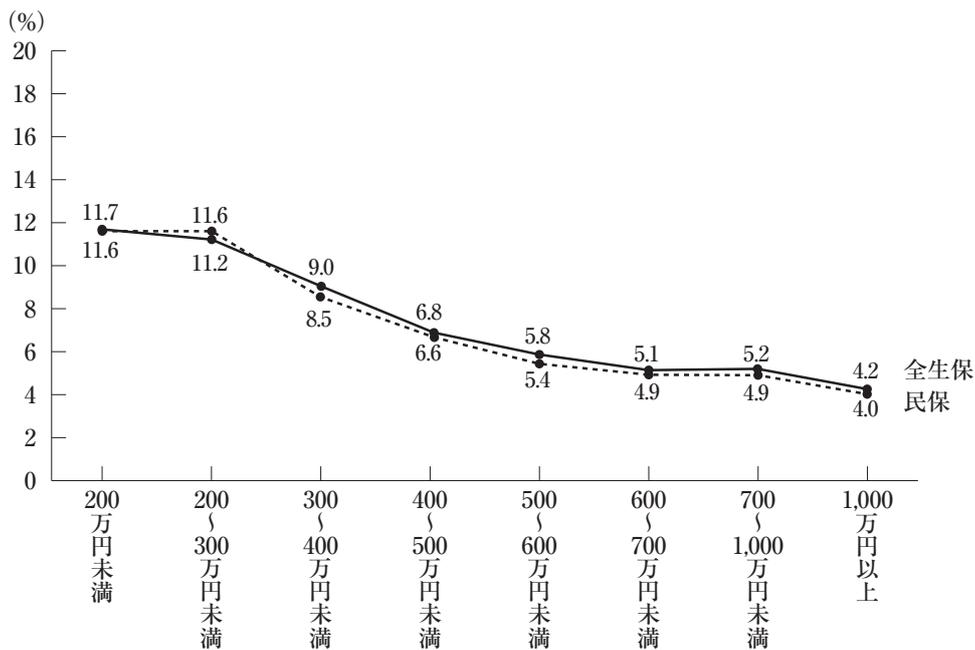
〈図表 I - 56〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率 (世帯主年齢別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保、民保ともに「300万円未満」の層では1割を超えている。(図表 I - 57)

〈図表 I - 57〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率 (世帯年収別)



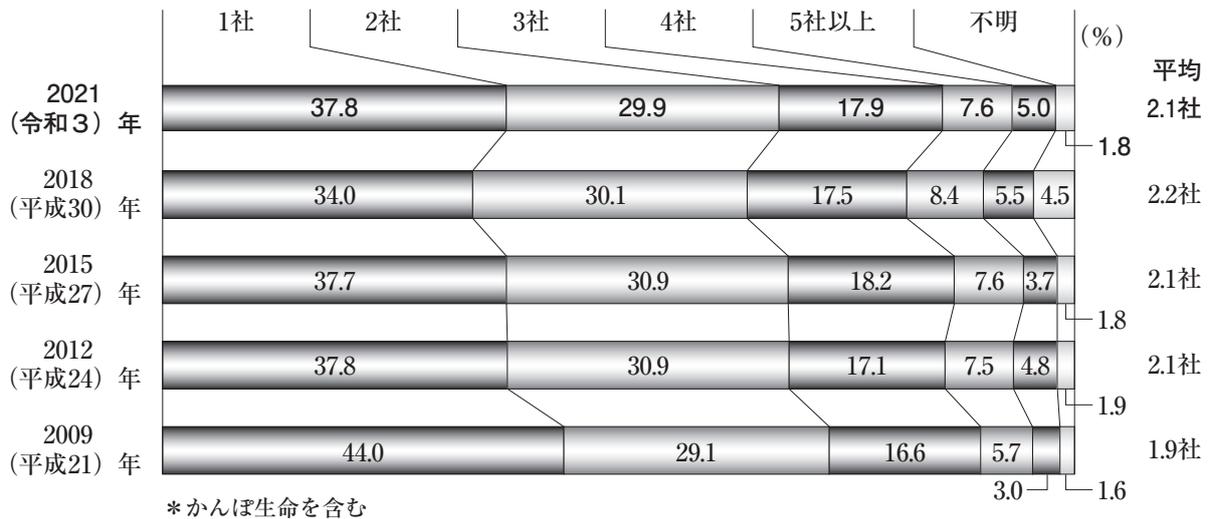
*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(6) 民保の加入会社数

民保加入世帯（かんぽ生命を含む）における加入会社数をみると、「1社」37.8%（前回34.0%）、「2社」29.9%（前回30.1%）、「3社」17.9%（前回17.5%）となっている。

前回と比べると、「1社」が3.8ポイント増加している。（図表 I - 58）

〈図表 I - 58〉 民保の加入会社数



民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料をみると、世帯加入件数は1.6件（前回1.6件）、世帯普通死亡保険金額は1,140万円（前回1,171万円）、世帯年間払込保険料は18.4万円（前回18.3万円）となっている。

前回と比較すると大きな差異はみられなかった。（図表 I - 59）

〈図表 I - 59〉 民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料

	世帯加入件数 (件)	世帯普通死亡保険金額 (万円)	世帯年間払込保険料 (万円)
2021 (令和3) 年	1.6 (0.0)	1,140 (▲31)	18.4 (+0.1)
2018 (平成30) 年	1.6 (0.0)	1,171 (▲155)	18.3 (▲1.7)
2015 (平成27) 年	1.6 (0.0)	1,326 (▲99)	20.0 (0.0)
2012 (平成24) 年	1.6 (▲0.1)	1,425 (▲246)	20.0 (▲2.0)
2009 (平成21) 年	1.7 (0.0)	1,671 (▲84)	22.0 (▲0.1)

(世帯加入件数、世帯年間払込保険料には個人年金保険を含む)

*かんぽ生命を含む

* () は前回調査との差